

令和 5 年度（令和 4 年度対象）

網走市教育委員会 事務点検・評価報告書

令和 5 年 9 月

網走市教育委員会

はじめに

本市では、平成20年5月に「網走市の教育目標」を策定し、また、この具現化のために「網走市学校教育計画」並びに「網走市社会教育長期計画」を策定して、次代を担う子どもたちの「生きる力」の育成や、市民の学習活動の支援と学習機会の提供に努めているところです。

こうした教育委員会の活動については、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、各教育委員会が毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出、公表することとされています。

当委員会では、令和4年度の事務・事業について、学識経験者の知見を活用した点検・評価を実施し、本報告書のとおり取りまとめを行いました。

今回の点検・評価の結果を踏まえ、今後も本市の子どもたちの心豊かな成長と、市民の皆様の活気と潤いに満ちた生涯学習社会の創造をめざし、学校・家庭・地域はもとより、関係機関・関係団体等との連携を深めて、本市教育のより一層の充実・発展のために全力で取り組んでまいります。

令和5年9月

網走市教育委員会 教育長 岩 永 雅 浩

目 次

内容

I	教育委員会事務点検・評価制度の概要	1
1	制度について	1
2	点検・評価の構成	1
II	「令和4年度教育行政推進方針」についての点検	2
1	総評	2
2	事業の点検	2
	[学校教育の推進]	
1	幼児期に身につけるべき基礎の育成	2
2	確かな学力の育成	3
3	豊かな人間性の育成	5
4	健やかな体の育成	7
5	支援が必要な子どもに対する教育体制の充実	10
6	学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進	12
7	学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現	15
	[社会教育の推進]	
1	生涯学習	19
2	社会教育	26
3	家庭教育	33
4	芸術文化	35
5	文化財	46
6	スポーツ	47
7	国際化対応	53
III	教育委員会の活動状況	54
1	教育長及び教育委員の就任状況	54
2	教育委員会議の開催状況	54
3	その他の主な活動	56
4	教育委員による自己点検	57
IV	外部評価報告書	60
1	学校教育	60
2	社会教育	63

I 教育委員会事務点検・評価制度の概要

1 制度について

中央教育審議会等における従来からの議論に加え、平成18年度に発足した「教育再生会議」の第一次報告においても、教育委員会の自己評価の必要性に関して言及されました。こうした状況を背景に、平成19年6月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条において、平成20年度から、すべての教育委員会において、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。

《地方教育行政の組織及び運営に関する法律(第26条)》抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の構成

令和4年度の教育委員会事務及び活動について、点検・評価を次のとおり実施しました。

(1) 目的

本市の教育行政の充実に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的とします。

(2) 対象期間

令和4年度とします。

(3) 事務点検

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に規定する教育委員会の権限に属する事務及び市長から補助執行を受け、教育委員会において実際に管理・執行している事務として、令和4年度教育行政推進方針に掲げられた施策に基づく事業について取り組み実績をまとめ、内部点検を行いました。

(4) 委員会活動の点検

教育委員により令和4年度の教育委員活動について自己点検を行いました。

(5) 学識経験を有する方の知見の活用(外部評価)

外部評価を実施するため、北海道教育大学旭川校 学校臨床教授 吉田昌広氏と、元網走市社会教育委員 岡山一枝氏に外部評価を依頼しました。

資料として、「網走市教育行政執行について」、「網走市教育行政推進方針」、「令和4年度の主な活動内容など」を提供し、それを基に点検・評価をいただき、報告書を作成しました。

Ⅱ「令和４年度教育行政推進方針」についての点検

教育行政推進方針は、毎年、網走市議会第１回定例会において教育長が表明する翌年度の教育行政執行についての具体的な推進方針として、教育予算とともに教育委員会において審議・決定されるものです。

令和４年度事業として、その中に盛り込まれた施策・事業の内容と成果について内部点検を行い、今後の方向性について考察しました。

１ 総評

教育行政推進方針に掲げてある事業については、概ね予定どおり実施されています。

こうした点検が毎年行われることにより、課題の特定化と明確化が進み、次年度の方針決定に生かせるものと考えますが、令和４年度においても新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、一部の事業の実施について影響がありました。

２ 事業の点検

《点検結果》

学校教育の推進

１ 幼児期に身につけるべき基礎の育成

項 目	幼保小連携事業（継続）
目 的	子どもが円滑に小学校生活を始められるよう、幼児と小学校児童との交流を充実させるとともに、教職員間で情報交流の促進を図る。
取組実績	・１日体験入学の実施 ・学校行事の合同開催（運動会・防災訓練） ・教育支援委員会の開催（令和４年１０月１９日） ・教育相談会の実施（就学時健康診断時）相談申込者３７名
成 果	小学校への円滑な接続が図られている。
課 題	特別支援を必要とする児童・生徒の数は年々増加傾向にある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、小学校への円滑な接続に努めていく。

2 確かな学力の育成

項 目	学力向上対策事業（継続）
目 的	児童生徒の学力の実態を把握するとともに、効果的な授業や対応を推進し、学力の向上を図る。
取組実績	比較・分析が可能な学力テストの実施：小学校 942 千円、中学校 724 千円
成 果	毎年所要額を予算措置することにより、学力の継続的把握が可能となった。
課 題	継続して実施し、分析していく中で、効果的な指導法等の改善を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	教材・教具の整備〔教師用指導書整備（拡充）・指導者用デジタル教科用教材整備（継続）・GIGA スクール対応備品（継続）・電子黒板整備（新規）〕
目 的	小中学校の教材教具の整備・充実を図る。
取組実績	・知能検査：小学校 187 千円、中学校 0 千円 ・教材費等配当：小学校 5,768 千円、中学校 4,821 千円 ・義務教育教材の整備(市単費)：小学校 5,197 千円、中学校 5,050 千円 ・理科教育教材の整備(国補助)：小学校 3,708 千円、中学校 2,707 千円 ・教師用指導書、教科書の購入：小学校 117 千円、中学校 79 千円 ・指導者用デジタル教科書の整備：小学校 1,196 千円、中学校 436 千円 ・通知票、卒業証書の印刷：小学校 499 千円、中学校 359 千円 ・電子黒板の整備：小学校 63,049 千円、中学校 26,959 千円
成 果	毎年所要額を予算措置することにより、教材・教具の整備・充実が図られている。
課 題	継続して充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	国際理解・外国語教育の充実〔外国語指導助手配置増員〕（拡充）
目 的	小学校及び中学校における英語授業において、担当教諭をサポートする外国青年「外国語指導助手（A L T）」を配置し、生きた英語に触れることにより、児童・生徒の英語の表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。
取組実績	・外国語指導助手(A L T)の配置(2 名) ・小学校 9 校、中学校 6 校を訪問・指導 ・英語能力コンテスト等への協力 ・学校行事、クラブ活動への協力 ・地域における国際交流への協力 ・令和 4 年 8 月から小学校担当 1 名配置
成 果	A L T の生きた英語に触れることにより、英語の正しい発音や表現力、コミュニケーション能力の育成が図られている。
課 題	A L T の来日当初は、うまくコミュニケーションが図れない場面もあることから、3 年程度の継続雇用が必要と考える。
今後の方向性	引き続き A L T 2 名体制を維持していく。

項 目	学習支援員配置事業（継続）
目 的	市費負担による算数・数学における教員を配置し、T T（チーム・ティーチング）指導・習熟度別少人数指導や補充学習に取り組むことで、学習内容の基本・基礎を定着させる。
取組実績	・退職した教員や、免許所有者を会計年度任用職員として任用し、小学校 4 校、中学校 2 校に配置し習熟度別授業や少人数指導、補充学習に取り組んだ。
成 果	きめ細かな指導が可能となり、基礎・基本の定着が進むとともに、補充学習を通じて児童生徒の学習意欲の向上が図られた。
課 題	道教委加配による少人数指導と連携した、より効果的な活用法の検討が必要
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の学力向上に努める。

項 目	あばしり寺子屋開催事業（継続）
目 的	小学１～６年生を対象に学生ボランティアによるサポート授業を行い、「わかる喜びやできる喜び」を体得させることを通して、学習習慣の定着や学力の向上を参加児童にとって必要な学力を見極め、「確かな学力」を身につけさせる。
取組実績	・東京農業大学生物産業学部 学生ボランティア 延べ人数：52 名 ・実施回数 6 回（5/28、6/25、7/9、8/27、9/10、10/22） ・延べ参加人数：1 年生 18 名、2 年生 0 名、3 年生 0 名、4 年生 26 名、5 年生 0 名、6 年生 5 名 計 49 名 ・第 2 回目（6/25）から対象児童を拡大（前：1～3 年生 →後：1～6 年生）
成 果	学習習慣の定着
課 題	参加する児童のニーズに応じた学習内容の設定
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童の学力向上に努める。

項 目	キャリア教育の充実（継続）
目 的	児童生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る。
取組実績	令和 2 年 4 月より全ての小中学校で「キャリアパスポート」を導入した。 ・キャリアパスポート用ファイルの購入（新小学 1 年生用 210 冊 ※予備含む） ・職場訪問等、児童生徒が自ら将来とキャリアを考えるための体験学習を実施した。
成 果	児童生徒が学習や活動の内容をキャリアパスポートに記録し、自己評価や振り返りをすることで、自立心の成長が見込めることや、社会を見つめるきっかけにつながり、教員にとっても児童生徒の特性を把握できるようになる。
課 題	各学校でどのような教科、内容で取り組みを進めるか検討が必要
今後の方向性	毎年新小学 1 年生に対してキャリアパスポート用ファイルの整備を行い、キャリア教育の充実を図る。

3 豊かな人間性の育成

項 目	教材・教具の整備〔学校図書〕（継続）
目 的	小中学校の学校図書館用図書の計画的な整備・更新を図る。
取組実績	・文部科学省より示されている学校規模（学級数）に応じた学校図書整備基準冊数及び鮮度を考慮し、各学校へ予算を配当：小学校 2,910 千円、中学校 1,940 千円 ・また、平成 30 年度より図書館で利用する消耗品の購入費として、各校 10 千円を配当
成 果	毎年所要額を予算措置することにより、教材・教具の整備・充実が図られている。 小学校 2,358 冊購入、中学校 1,299 冊購入
課 題	図書の劣化や破損に対する対応や必要な古書の見極めが必要である。
今後の方向性	令和 4 年度末の図書整備基準冊数達成率は、小学校全体で 106.9%、中学校全体で 101.9% となっている。引き続き基準冊数を保持しながら、鮮度を考慮した古書・毀損（きそん）図書の更新に努める。

項 目	学校図書館司書の配置（継続）
目 的	学校に学校図書館司書を配置し、図書館整備・活用促進を図ることで、児童生徒の読書への関心を高め、学力の向上を図る。
取組実績	・司書資格を有する者を配置することにより、学校図書館資料の管理や整理、児童生徒に対する読み聞かせ、学校図書館に関する教育指導への支援を行う。 ・平成 25 年度から学校図書館司書 1 名を小学校 3 校にモデル的に巡回配置。平成 27 年度は 3 名体制として司書教諭不在の状況を解消。平成 29 年度よりさらに増員して 4 名体制として、司書教諭配置校にも巡回を行い連携して読書への関心を高める取組みを推進している。
成 果	本の整理・分類整備が進み、貸出冊数の増加や高学年の利用が増えるなど、児童生徒の読書への関心が深められた。
課 題	引き続き児童生徒の読書への関心を向上させるための検討が必要
今後の方向性	今後もすべての学校へ巡回配置を行い、事業を継続していく。

項 目	読書感想文コンクールの実施（継続）
目 的	読書感想文コンクールを開催し、読書活動の推進を図ることで児童生徒の読書意欲を高めて、自分の考えを文章で表現する力を身につけさせる。
取組実績	・応募作品数：1,757 点（小学校 1,235 点、中学校 522 点） （小学校）1 年生 96 点、2 年生 183 点、3 年生 232 点、 4 年生 231 点、5 年生 253 点、6 年生 240 点 （中学校）1 年生 229 点、2 年生 205 点、3 年生 88 点 ・賞：各部門ごとに最優秀賞 1 点、優秀賞 1 点、佳作 2 点を選出
成 果	文章で表現することを通して、豊かな人間性や考える力を育んだ。
課 題	より良い読書習慣定着のため、児童生徒が取り組みやすい実施方法の検討が必要
今後の方向性	読書活動充実のため、内容を工夫しながら今後も継続していく。

項 目	網走市子ども会議の実施（継続）
目 的	いじめの根絶や命の大切さなどについての意見交換を通して、各学校における望ましい人間関係づくりの意識の醸成と、いじめの問題への取り組みの一層の充実を図る。
取組実績	・令和5年1月28日に開催。児童会や生徒会等がいじめ問題の解決や人間関係づくりに取り組んだ内容の交流や、いじめの根絶・命の大切さなどについての意見交流を行った。 ・参加児童生徒数： 小学校 18 名 中学校 12 名（各校 2 名ずつ）
成 果	他校の取り組みを知ることで、自校での課題解決活動のきっかけづくりとなっている。
課 題	テーマを限定せず、今日的な教育的課題や子どもたちの関心があることなどについて、会議内容を検討する。
今後の方向性	児童生徒の意識啓発や自発的な課題解決に向けた機会として、引き続き実施する。

項 目	学校教育指導奨励諸補助負担金〔合同観劇事業補助〕（継続）
目 的	児童に優れた芸術文化を鑑賞させることにより、豊かな表現力と情操教育の充実を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	コロナ禍においても豊かな表現力と情操教育の充実を図るための取り組みの検討
今後の方向性	引き続き実施する。

項 目	いじめ対策事業（継続）
目 的	いじめの実態を把握し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等の指導に役立てる。 また、講演会や啓発資料の作成を通して、児童生徒、学校、保護者にいじめ問題への取り組みの重要性を広める。
取組実績	・スクールカウンセラーを活用した学校への指導、助言 ・いじめ問題対策連絡協議会の開催（2/7） ・いじめ問題専門委員会、調査委員会の設置開催（3/21）
成 果	いじめ問題の取組についての普及・啓発
課 題	全ての児童生徒が「いじめはどんな理由があっても許されない」ことへの理解を深め、児童生徒の豊かな情操を育む。
今後の方向性	いじめ問題克服のため、学校全体が組織的にいじめの未然防止に向け、いじめをしない環境づくりと、関係機関が一体となった継続的な取り組みを図る。

4 健やかな体の育成

項 目	学校プール管理事業（継続）
目 的	夏季における学校教育の一環としての水泳授業実施のため、学校プールの安全な管理運営及び施設整備を行う。
取組実績	・ 小学校 9 校のうち 5 校で実施（網走小、中央小、西小、東小、白鳥台小） ※南小は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 ※潮見小、呼人小は市民健康プール、西が丘小は西地域プールで授業実施 ・ プール管理人を各校 1 名配置（委託先：シルバー人材センター） ・ プール環境の点検も管理人が実施（水質、水温、室温等） ・ 定期検査実施（学校薬剤師と市 1 名で残留塩素、大腸菌群、管理日誌記録等点検） ・ プール使用時期前後に濾過機の保守点検や屋根シートの付け外しを実施
成 果	安全なプール授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課 題	施設の老朽化が進んでおり、施設維持のためのメンテナンスが課題である。
今後の方向性	引き続き学校プールの適切な管理運営に努める。

項 目	学校スケートリンク設置補助事業（継続）
目 的	冬季における学校教育の一環として行われるスケート授業実施のため、学校スケートリンク等設置運営に要する経費の一部補助を実施校に対して行い、児童生徒の心身の健全な発達を図る。
取組実績	・ スケートリンク等設置で補助 4 校（網走小、東小、白鳥台小、西が丘小）
成 果	スケート授業の実施により、子どもたちの心身の健全な発達が図られた。
課 題	スケートリンクの造成は P T A の方々による協力が必要となり、リンクの造成に大きな負担がかかっている。
今後の方向性	事業を継続し、冬季スポーツによる子どもたちの心身の健全な発達を図っていく。

項 目	児童生徒の健康管理事業（継続）
目 的	児童生徒が健康な体で学校生活を送れるよう各種保健事業を行う。
取組実績	・ 新入学の児童を対象とした就学時健康診断の実施 ・ 在籍する児童生徒を対象とした各種健診の実施（尿検査、結核健診、脊柱側湾症検査、眼科検診、心臓検診、耳鼻咽喉科検診）
成 果	健康診断を実施することにより、児童生徒の健康管理が図られている。
課 題	医師会との連携、各種検診における学校との日程調整及び学校外で実施する検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の健康管理の推進に努める。

項 目	学校給食運営事業〔施設・備品の整備、衛生管理〕（継続）
目 的	安全で安心な学校給食の実施により、児童生徒の身体に必要な栄養を摂取し、あわせて食事のマナー等を身につけさせる。また、給食室設備の維持管理、給食調理員の衛生教育等を行う。
取組実績	・設備・備品の主な修繕・更新の実施状況 グリーストラップ改修工事（網走小 1,870 千円） ガス管改修工事（西小 1,131 千円） 小荷物用昇降機改修工事（第五中 1,210 千円）等 ・学校給食従事職員研修会（年 1 回） ・学校給食巡回指導の実施（年 2 回、栄養教諭等の配置がない 3 校へ） ※保健所による検査 年 1 回 ・給食調理員等の検便検査、食材の細菌検査の定期的な実施 ・児童生徒の食物アレルギーに対し、家庭との連携を図り対応
成 果	衛生管理に努め、安全・安心でおいしく質の高い学校給食を児童生徒に供給し、健やかな身体の成長を図ることができた。
課 題	継続して施設改善・備品等整備・衛生管理等に努めるとともに、児童生徒に安全で安心な学校給食を提供していくための調理体制の整備が必要である。
今後の方向性	今後も施設設備の維持修繕・更新を進めるとともに、給食の安定供給を図るための調理体制の整備を進める。また、学校給食従事職員の衛生教育等を図り、児童生徒に安全で安心な学校給食を供給していく。

項 目	学校給食施設整備事業（新規）
目 的	学校給食が継続して安定的に児童生徒に提供できるよう、給食調理場を集約する。
取組実績	東部地区共同調理場（東小学校・第四中学校）と白鳥台小学校調理場を南地区共同調理場に、呼人小中学校調理場を潮見地区共同調理場に集約。 ・改修工事：南地区共同調理場増築工事、給食搬出入口附帯工事、給食運搬車車庫新設工事等 ・備品購入：保温食缶、配送用コンテナ、牛乳保管用冷蔵庫等 ・車両購入：給食運搬車（2台）、軽トラック（2台）
成 果	安全・安心でおいしい学校給食を児童生徒に提供している。
課 題	各施設の更なる改善や備品等更新等、継続して調理体制の整備が必要である。
今後の方向性	引き続き、安全・安心でおいしい給食を提供していく。

項 目	学校給食を活用した食育の推進（継続）
目 的	栄養教諭の任用により食育の推進を図るとともに、未配置校においても食に関する指導を実施する。地場産物を活用した給食を実施し、地元産業や地場産物への理解を深める。
取組実績	・栄養教諭による食に関する指導（栄養教諭 5 名） ・「網走ふるさと給食」において、地元産食材を使用した給食を実施（鮭ザンギ丼、すりみ汁、ホタテと行者菜のオイスターソース炒め、ほっけのカレー揚げ、ホタテとタコの炊き込みご飯） ・地元産業や地場産物への理解を深めるため、希望校においては生産者講話を実施 ・学校給食用パンへ網走産小麦を 100%使用 ・鯨食文化の理解を深めるために、鯨肉を使用した給食の実施 ・野菜摂取量の増加、野菜に親しむことを目的とした野菜の日給食の実施
成 果	食育の推進や地元食材を活用することにより、児童生徒の地場産物や食文化に対する理解が深められた。
課 題	生産者や流通などの関係機関との連携体制の強化
今後の方向性	各学校の栄養教諭と連携を図りながら、全校的に食育の推進を図る。また、今後も地元食材を活用するとともに、生産者の協力を得ながら「網走ふるさと給食」を継続して実施していく。

項 目	子ども体力づくりサポート事業（継続）
目 的	市内の児童生徒が体力づくりの支援を受ける環境を整備し、運動習慣の定着や体力づくりの向上に資する。
取組実績	・講師（学校法人日本体育大学）による体育科の示範授業を実施（令和 5 年 1 月 31 日、呼人小中） ・教員を対象とした研修会を実施（令和 5 年 1 月 31 日、参加教員：16 名）
成 果	専門的な指導のもと、児童生徒の体力向上に関する興味関心の増大や、教員の指導方法の向上につなげることができた。
課 題	教員の指導方法や児童の体力向上に対する意欲付けなどを市内全校に広げていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒の体力向上を図る。

項 目	タグラグビー大会の開催（継続）
目 的	タグラグビー大会を開催することにより、児童の健全な発達・成長を促し、体力向上を図ることを目的とする。
取組実績	・参加児童 小学生（3 年～6 年）11 チーム 75 名 ・開催日時 令和 4 年 9 月 17 日（土）9 時～12 時 ・会場 網走スポーツ・トレーニングフィールド
成 果	タグラグビーの取り組みを通して、身体能力の向上、健康的な体づくりに寄与した。
課 題	市内全ての小学校が参加できるよう呼びかけを行っていく必要がある。
今後の方向性	ラグビー協会の協力をいただき、各学校におけるタグラグビーの取り組みを積極的に行うこととし、今後も継続して大会を開催していく。

項 目	中学校体育文化振興事業補助（継続）
目 的	生徒が対外試合やコンクール等に参加する場合に、経費の一部を補助することにより、保護者の経済的負担を軽減し、体育・文化活動の振興を図ることを目的とする。
取組実績	・補助実績：9,162 千円
成 果	学校外における体育・文化活動を通じ、生徒の健全な心身の育成を図り、中学校教育の充実に寄与した。
課 題	保護者の負担軽減を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

5 支援が必要な子どもに対する教育体制の充実

項 目	特別支援教育の推進〔特別支援教育費・施設・備品等整備〕（継続）
目 的	特別支援学級、通級指導教室（ことばの教室）の学級設備・用具・教材の充実を図るとともに、学級運営上の必要経費について学校配当を行う。
取組実績	・特別支援教育費学校配当：小学校 9 校 2,346 千円、中学校 6 校 1,010 千円 ・既存特別支援学級教材備品の整備：小学校 6 校(47 学級) 792 千円 （網走小、中央小、南小、西小、東小、西が丘小） 中学校 4 校(15 学級) 410 千円 （第三中、第四中、第五中、呼人中） ※整備未実施の小学校 3 校、中学校 2 校は、令和 4 年度の要望なし ・通級指導教室（ことばの教室）への教材費等配当：中央小(1 教室)357 千円
成 果	学級設備・用具・教材の整備充実を進めることにより、円滑な学級運営が図られた。
課 題	増加傾向にある支援の必要な児童生徒に対する個別ニーズへ対応する必要がある。
今後の方向性	増加・多様化する支援の必要な児童生徒に対し、個々の特性に応じた設備や教材の更なる整備・充実を図る。令和 5 年度より新規開設となる潮見小通級指導教室についても、必要に応じて教材等の整備を行う。

項 目	特別支援教育研修事業（継続）
目 的	障がいのある児童生徒に対しては、様々な工夫と配慮の下での指導が展開されている中で、より障がいに対する幅広い理解と専門性の一層の向上が図られるよう研修の場や機会を設ける。
取組実績	・特別支援研修会の開催（8 月 25 日/エコーセンター）参加者 13 名 - 講師：大空町立女満別小学校 高川教諭 - 研修内容：教育相談面接、就学措置判断など
成 果	担当教員のより専門的な知識の習得と資質の向上が図られている。
課 題	養護学校等の関係機関と更に連携を深める必要がある。
今後の方向性	具体的な指導法を盛り込んだ、より実践的な研修の充実を図る。

項 目	特別支援教育支援員の配置（拡充）
目 的	教育上特別な配慮を要する児童生徒の特別支援教育推進のため、通常学級及び特別支援学級に支援員を配置する。
取組実績	・支援員の配置：小学校 7 校 23 名、中学校 4 校 5 名
成 果	支援員を配置することにより、特別支援学級等でのより円滑な学級運営が図られた。
課 題	特別支援教育対象児童生徒の増加に伴い、より充実した支援を行うため、学校の実情に応じた支援員配置が必要である。
今後の方向性	毎年度、各学校の実情に応じて支援員の配置を見直し、限られた職員体制の中で効果的に特別支援教育が実施されるよう、その充実に努める。

項 目	教育相談体制の充実〔教育児童相談室運営事業〕（継続）
目 的	児童生徒の教育及び家庭児童福祉上の問題に対して、児童生徒及び保護者からの相談に応じ、関係機関との連絡調整を行いながら指導・助言を行う相談室を設置して問題解決を図る。
取組実績	・相談室の開設（相談員は学校教育部から 1 名、健康福祉部から 2 名を配置） ・相談延べ件数：142 件
成 果	相談員が学校や関係機関との連絡調整を図りながら、問題解決に向け指導・助言を行っている。
課 題	学校をはじめ関係機関と連携を図る上で、日常的な情報交換や対応協議の場を充実し、更に連携を深める必要がある。保護者と情報を共有し、歩調を合わせた児童生徒への指導のあり方が課題である。
今後の方向性	今後も、不登校やいじめ・家庭問題等に対し、学校・家庭・関係機関が連携して適切に対応できるよう相談室の充実を図る。

項 目	スクールカウンセラーの配置（継続）
目 的	児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有するスクールカウンセラーを配置し、学校における教育相談体制の充実を図る。
取組実績	・市内小中学校の児童生徒のスクールカウンセリング、教職員・保護者に対する専門的助言や情報提供を実施 ・相談数：年間 365 回、1,526 時間 ・配置人数：3 名
成 果	スクールカウンセラーの適切な指導・助言によりの確な課題整理が可能となり、児童生徒の不登校や問題行動等の解決に向け、生徒指導の充実が図られた。
課 題	カウンセリングが必要な児童生徒など、学校や教育相談室との更なる連携が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	不登校児童生徒への支援の充実〔適応指導教室運営事業〕（継続）
目 的	不登校児童生徒に対しての適切な教育相談、適応指導、学習指導などの指導援助を行い集団生活への適応や学校生活への復帰を促すため、適応指導教室を設置する。
取組実績	・適応指導教室指導員の配置(1 名) ・適応指導教室「クリオネ学級」の開設・運営（毎週月～金曜日 午前 9 時～午後 3 時） ・通級児童生徒数： 令和 4 年度 8 名(小学生 4 名、中学生 4 名)
成 果	教育相談や適応指導、学習指導を通し、不登校児童生徒の集団生活への適応の改善が図られている。
課 題	児童生徒個々の性格・実情を把握し、学校生活への復帰に向けてそれぞれに見合った指導援助が必要であるが、児童生徒の安定した通級を図ることに難しさがある。
今後の方向性	令和 5 年度より網走市教育支援センターへ名称を変更し、児童生徒や保護者の抵抗感の低減を図るとともに、一人でも多くの児童生徒が学校復帰できるよう指導援助体制の充実に努める。

項 目	学級集団状況把握事業〔Q-Uテストを活用した学級集団状況把握〕（継続）
目 的	児童生徒に学校生活意欲と学級満足度の検査を実施し、いじめや不登校などの問題行動の早期発見、予防と対策につなげる。
取組実績	Q-Uテスト(楽しい学校生活を送るためのアンケート式心理テスト)を、小学校 4 校(中央小、西小、南小、西が丘小)、中学校 3 校(第一中、第三中、第五中)で実施した。
成 果	Q-Uテストの結果を学級経営に反映させることで、児童生徒の悩みや問題行動の早期解決が図られた。
課 題	より効果的に早期発見や予防につなげるための、検査結果データの活用方法の検討
今後の方向性	今後も事業を継続し、より安定した学級経営を図る。

6 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進

項 目	学校開放運営事業（継続）
目 的	学校教育に支障のない範囲で、小中学校の体育館を市民に開放し、スポーツ・文化活動の場として活用する。
取組実績	・利用団体：21団体 延べ利用回数：590回 ・開放学校：小学校7校（網走小、中央小、南小、西小、潮見小、東小、呼人小） 中学校4校（一中、二中、三中、五中）
成 果	年間を通じて市民の利用があり、スポーツ活動の場となっている。
課 題	利用者が安全に活動でき、かつ教職員の負担が掛からないような管理体制の検討
今後の方向性	スポーツ・文化活動の振興を図るため、事業を継続していく。

項 目	学校教育研究実践校補助事業（継続）
目 的	教育課程、学習指導及び生徒指導等の当面する学校教育の課題について、実践的な研究を促進する。
取組実績	市内小中学校のうち申請のあった学校に対し、教育研究経費を補助し、各校の公開研究会実施を支援した。
成 果	指定校では、当面する課題の実践研究が行われ、教職員の資質向上や児童生徒の学力向上が図られ、実践研究成果の普及に努めている。
課 題	教員の授業力向上が児童生徒の学力向上に結びつくよう研究内容の更なる改善を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の資質向上・児童生徒の学力向上に努める。

項 目	コミュニティ・スクール推進事業（継続）
目 的	学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画できるコミュニティ・スクール（CS）の活動を推進する。
取組実績	・CS研修会 令和4年10月6日開催（参加者65名） ・導入校 令和元年度 西部地区学校運営協議会（西が丘小、第五中） 東部三校学校運営協議会（東小、白鳥台小、第四中） 呼人地区学校運営協議会（呼人小、呼人中） 令和2年度 中央、西地区学校運営協議会（西小、中央小、第二中） 網走小学校学校運営協議会 南小学校学校運営協議会 潮見小学校学校運営協議会 第一中学校学校運営協議会 第三中学校学校運営協議会
成 果	学校運営協議会を通じて、地域の方が幅広く関わる場面が確保されている。
課 題	各校において、地域との連携を深めるための取組内容の充実が必要である。
今後の方向性	引き続き学校運営協議会の取り組みの充実を図る。

項 目	小中学校就学奨励事業（継続） ※教材費等の保護者負担の一部軽減を含む。
目 的	教育の機会均等の精神に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒もしくは入学予定者の保護者に対し就学に要する経費を援助することにより、すべての児童生徒が義務教育の円滑な実施に資することを目的とする。
取組実績	・学用品費、通学用品費、校外活動費、修学旅行費、通学費、給食費、新入学児童生徒学用品費、体育実技用具費、生徒会費、P T A会費、クラブ活動費、Wi-Fi 通信費の援助 ・要保護者に対する修学旅行費の援助 ・学校保健安全法第 24 条及び同法施行令第 8 条に定める疾病の治療に要した費用の援助 ・令和 4 年度： 準要保護扶助児童生徒数 419 名 特別支援学級在籍扶助児童生徒数 68 名
成 果	経済的支援を要する保護者の負担軽減が図られている。
課 題	家庭と地域が連携した学校教育の充実。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

7 学びをつなぎ、安全・安心な教育環境の実現

項 目	教員住宅管理事業（継続）
目 的	教職員住宅の維持修繕及び営繕を行い、教職員が快適に生活できる環境をつくる。 （令和4年度末 管理住宅70戸）
取組実績	・8月中旬に修繕要望を取りまとめ、9月中旬に現地調査を実施 ・修繕内容：住宅補修、水廻り・ボイラー修繕、暖房設備修繕等
成 果	修繕要望があった箇所は緊急度が高いものから優先的に修繕を行い、快適な生活環境を整備している。
課 題	現状の予算規模内で修繕を継続実施し、耐用年数の長期化を図っていく必要がある。
今後の方向性	教員住宅の老朽化が進んでおり、学校施設等改修計画（令和5年度策定予定）に基づき住環境の整備に努めていく。

項 目	学校管理運営費〔教育環境の充実、学校配当予算〕（継続）
目 的	小中学校施設の管理（備品購入、業務委託等）をし、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境をつくる。
取組実績	・主な備品購入、業務委託の実施状況 【小学校備品】：中央小 放送設備(417千円)、南小 裁断機(303千円)、潮見小 裁断機(482千円)、網走小 紙折り機(399千円)、西が丘小 合成スポンジマット(379千円)、西が丘小 ロイター板(156千円)、白鳥台小 印刷機(793千円) 【中学校備品】：第五中 プリンター(178千円)、第三中 芝刈機(209千円)、第四中 複合機(792千円) 【業務委託】：小中学校機械警備、自家用電気工作物保守、消防用設備保守点検、廃棄物収集運搬処理、ストーブ分解掃除、貯水槽清掃、トイレ清掃 ・学校配当予算の執行状況 【小学校】需用費 16,059 千円、役務費 726 千円、備品購入費 1,685 千円 合計 18,470 千円 【中学校】需用費10,662千円、役務費354千円、備品購入費765千円 合計11,781千円
成 果	学校からの要望や耐用年数等から備品の購入や業務委託を行い、施設の維持が図られている。
課 題	予算の有効活用と優先順位の検証が必要である。
今後の方向性	今後についても引き続き、予算規模内で備品管理、業務委託を実施し、児童生徒・教職員の安全・安心な環境づくりを引き続き進めていく。

項 目	学校改修事業（継続）・学校トイレ改修事業（継続）
目 的	学校施設の長寿命化を図り、児童及び生徒の良好な学習環境を維持する。
取組実績	【改修事業】 ・小学校保健室エアコン設置工事（10,505千円） ・潮見小受電設備改修工事（令和4年度3,600千円、令和5年度繰越37,430千円） ・潮見小受水槽設備改修工事（22,880千円） ・南小バックネットフェンス改修工事（1,430千円） ・中学校保健室エアコン設置工事（5,995千円） ・第五中暖房設備改修工事（15,180千円） ・第五中屋上防水改修工事（23,518千円） 【トイレ改修事業】 ・南小トイレ改修工事（121,940千円） ・第一中トイレ改修工事（81,729千円） ・第二中トイレ改修工事（97,222千円）
成 果	改修により、施設の長寿命化が図られた。
課 題	改修財源の確保
今後の方向性	学校施設の老朽化が進んでおり、学校施設等改修計画（令和5年度策定予定）に基づき学校施設の改修を行うことで長寿命化を図るとともに、有利な財源を活用し、安全・安心な学習環境を維持していく。

項 目	学校施設の営繕・修繕工事（継続）
目 的	小中学校の校舎やグラウンド等の維持修繕及び営繕を行い、児童生徒や教職員が安全・安心に過ごすことができる環境をつくる。
取組実績	・主な営繕の実施状況 【小学校】 西が丘小グラウンド改修工事(1,023千円)、網走小屋体照明取替工事(212千円)、東小プールシート補修工事(803千円)、南小体育館床面ウレタン補修工事(733千円)、中央小非常用放送設備取替工事(1,002千円)、中央小黒板補修工事(2,310千円)、南小屋体照明取替工事(251千円) 【中学校】 第三中グラウンド改修工事(1,132千円)、第二中外部時計交換工事(714千円)、第四中体育館床面ウレタン補修(364千円)、第二中駐車場排水工事(1,008千円)、第一中体育館トイレ電動水抜栓取替工事(259千円)、第四中屋外給油設備改修工事(396千円)、第四中屋体照明取替工事(195千円)、第四中放送設備取替工事(1,232千円)
成 果	学校からの要望や耐用年数等から、学校施設の必要な維持修繕及び営繕を行い、施設整備が充実され安全・安心な環境がつくられている。
課 題	維持修繕を継続実施し、耐用年数の長期化を図っていく必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続し、児童生徒及び教職員にとって安全・安心な環境づくりを進めていく。

項 目	網走南ヶ丘高等学校定時制振興補助事業（継続）
目 的	定時制高校において、社会の変化に対応した教育を推進するために教材・教具の整備を図る。
取組実績	・網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対し、年額 90 千円の補助を実施。
成 果	教材・教具を整備することにより、教職員の指導方法の充実及び生徒の学習支援に寄与した。
課 題	教材等の整備により、さらなる生徒の学習意欲や勤労をはじめ社会活動におけるスキル向上のための支援が必要である。
今後の方向性	社会の変化に対応した教育の充実・推進を図るため、今後も事業を継続していく。

項 目	網走南ヶ丘高等学校定時制生徒通学手段確保事業（継続）
目 的	定時制生徒の下校時タクシー乗合利用で、利便性の向上と安全確保を図る。
取組実績	・網走南ヶ丘高等学校定時制振興会に対し、年額 235 万 2,830 円の補助を実施。 ・実績 延べ 1,635 人利用 利用日数 208 日（実利用人数：13 人）
成 果	夜間の下校時における利便性の向上と安全な下校手段の確保が図られた。
課 題	入学者数の確保
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	子ども安全対策事業〔安全対策、通学路の整備〕（継続）
目 的	児童生徒が安全に通学できる通学路の安全対策を図る。
取組実績	・通学路交通安全等プログラムによる関係機関との合同点検を元に、関係機関との連携により危険箇所について協議・対策を実施した。 ・また、新たな危険箇所について学校や関係機関からの聞き取りを行った。
成 果	登下校時における児童生徒の安全を確保した。
課 題	より効果的な安全対策について検討が必要である。
今後の方向性	今後も通学路の安全対策を図っていく。

項 目	スクールバス運行事業（継続）
目 的	網走市郊外の西部地区及び東部地区の児童生徒の安全な通学を確保するため、スクールバスを運行し、通学時の利便性向上を図る。
取組実績	・遠距離通学児童生徒のため、西部地区3路線、東部地区5路線の登下校便を運行 ・小中学校の広範な教育活動をサポートするため、各校に借上げバスの配当を行った。（小学校1,370千円、中学校984千円） ・学校の校外学習及び社会科見学等のため、スクールバスの多目的運行を行った。 ・休日及び夏・冬休み中の部活動におけるスクールバス運行を行った。
成 果	遠距離通学児童生徒の通学における利便性の向上と負担の軽減が図られている。
課 題	利用する児童生徒の入学・卒業により、停留所や路線を毎年度変更しているが、乗車時間、乗降場所、バスの空席状況に各路線により差が発生している。また、運航体制について保護者や地域の譲許王を把握する必要がある。
今後の方向性	今後も継続して、安全・安心な運行体制の維持に努めていく。

項 目	部活動指導員の配置（継続）
目 的	各競技団体などを通じて推薦のあった地域の外部人材を、市が部活動指導員として任用し中学校に配置することにより、部活動指導の充実と教職員の業務負担軽減を図る。
取組実績	・令和4年度：2名配置（第一中 バレーボール指導員1名、第四中 卓球指導員1名）実技指導、大会等の引率などの指導業務を実施。 - 指導回数（2名合計延べ数）年間336回、776時間
成 果	生徒の競技力向上による部活動の充実が図られたとともに教職員負担が軽減された。
課 題	競技団体の活動状況にもよるが、継続して関わることのできる人材の確保。
今後の方向性	各学校の要望に基づき、引き続き指導員の確保・配置に努める。

項 目	吹奏楽楽器整備事業（継続）
目 的	ふるさと寄附を活用し、小中学校の音楽教育を支援すべく吹奏楽における楽器を整備する。
取組実績	・市内小中学校（網走小、第一中、第二中、第三中）から要望のあった楽器を整備。
成 果	楽器整備により、各校の老朽化した楽器を更新でき、取り組める楽曲の幅が広がった。
課 題	楽器が高価であるため、整備できる規模が限られるとともに、楽器の維持管理の支援も必要である。
今後の方向性	今後も児童生徒の音楽教育の充実を図っていく。

項 目	教職員研修事業（継続）
目 的	教育課題の解決にあたって、教師の教科指導・児童生徒に関する指導力の向上を図る。
取組実績	・第48回全日本教育工業研究協議会全国大会への派遣 - 開催日：令和4年10月28日（金）～令和4年10月29日（土） - 会 場：愛知県春日井市 - 事業内容：協議会への参加、公開授業・研究発表の見学
成 果	先進地の取り組みを視察し、学力向上フォーラムで還元することで、教育の質の向上が図られた。
課 題	新学習指導要領への対応など教育の今日的課題に応じた研修内容の充実を図る必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	I C T 教育研修事業（継続）
目 的	GIGA スクール構想における「誰一人取り残すことない、公正に個別最適化された学びの実現」に向けて、教職員の指導力の向上を図る。
取組実績	管理職向け ICT 活用研修会 1 回、一般教員向け ICT 活用研修会 3 回、先進校視察 3 名、ICT 活用推進委員会全体会議 2 回、ICT 活用推進委員会推進チーム会議 3 回
成 果	学校全体の ICT 化が進むことで、教育の質の向上が図られた。
課 題	ICT を「使う」から「活用する」授業実践を推進する必要がある。
今後の方向性	今後も事業を継続していく。

項 目	校務支援システム管理事業（継続）
目 的	校務支援システムの運用により、各小中学校の校務軽減と情報の共有化を通じて、教育の質の向上を図る。
取組実績	・市内全ての小中学校で教職員の校務用パソコンによる校務支援システム(C4th)を運用
成 果	市内全ての小中学校において校務支援システムを活用した業務を行い、業務の定型化・情報の共有化が図られ、効率化した。 (主な業務内容)学籍管理、出席簿、学校日誌、成績管理、出勤簿機能
課 題	全ての教職員が校務支援システムをしっかりと使いこなせるよう、研修やサポートの充実を図る。
今後の方向性	今後も校務支援システムを活用した業務改善に取り組む。

項 目	学校教職員健康診断事業（継続）
目 的	教職員を対象に疾病等の早期発見、早期治療による健康管理を推進するため、健康診断を実施する。
取組実績	・学校に勤務する教職員 215 名の健康診断を実施（うち、要再検 77 名）
成 果	健康診断を実施することにより、教職員の健康管理が図られている。
課 題	各種検診における学校との日程調整及び学校外で実施する検診の検診会場の見直し等が必要である。
今後の方向性	今後も事業を継続し、教職員の健康管理の推進に努める。

社会教育の推進

1 生涯学習

(1) 生涯学習を進める体制や意識づくりの充実

項 目	まなび塾フェスティバルの開催（継続）
目 的	生涯学習活動を拡げるため、エコーセンター2000 を生涯学習の拠点として位置付け、市民から講師・企画を募りながら市民誰もが、いつでも楽しく学び続けるためのきっかけづくり・ステップアップの場を創出する。
取組実績	・主 催 あばしりまなび塾フェスティバル実行委員会 ・開催日時 令和4年11月23日（木・祝） ・会 場 オホーツク・文化交流センター ・開催内容 体験ブース12、ミニコンサート2（参加団体・サークル14） ・来 場 者 190名（1部：65名、2部：45名、ミニコンサート80名） ・参加スタッフ 113名
成 果	令和4年度は新型コロナウイルスの感染対策として、2部制とし定員を設けて実施した。科学や工作、音楽、書道、武道などを体験学習できるブースを設置して、参加者に学びのきっかけ、ステップアップの機会を提供した。毎年、エコーセンター2000の開館記念日（11/23）に開催しており、市民にも定着したイベントとして、毎年多くの参加を得ている。
課 題	エコーセンター利用サークルの活動発表を中心に実施しているが、生涯学習活動拡大のため、幅広い周知や参加呼びかけなどを行っていく必要がある。
今後の方向性	個人・サークル等の紹介・発表の場として、市民の生涯学習への取組を喚起する機会として必要な事業であり、実行委員会と十分な協議の上、事業を継続していく。

項 目	大きなかぶ応援事業（自主学習グループ活動促進事業）の実施（継続）
目 的	市内の団体・サークルが自主的に行う学習会・講習会などに対し講師謝金を助成することにより、市民の学習意欲を喚起し、生涯学習の推進を図る。
取組実績	・対 象 団体・サークル会員相互の学習会、市民が参加する学習会、5名以上の参加者が見込める学習会とし、運営補助的事業を除く。 ・要 件 開催する場所・時間・形式は問わない。 講師は、日常活動の指導者を除く外部からの特別講師とする。 ・支援内容 講師謝金の助成。 ・事業実績 13団体13件 参加者201名（講演会6、実技講習7）
成 果	令和4年度は、予算額を上回る申請があったが、コロナ禍で2～3年活動ができていなかったことを鑑み、予算流用を図り全ての申請に対応した。令和2年度よりオンラインによる学習会・講習会でも活用可能とし、利便性を高めている。
課 題	自主的な学習・活動のさらなる推進のために幅広い周知PRが必要
今後の方向性	自主的な学習・活動の拡充に向けて引き続き取り組んでいく。

項 目	子どもと遊ぼうボランティア隊の登録（継続）
目 的	地域社会全体で子どもたちの活動を支援する場の提供が求められていることから、子どもたちと楽しく活動するボランティアを広く市民から募集する。
取組実績	・ 登 録 者 29名 ・ 登録内容 工作、音楽、料理、裁縫、陶芸、美術、書道など 17種類 ・ 実施内容 土曜日、日曜日に「ロセトクラブ」として実施（24教室、415名参加）
成 果	登録された講師により「ロセトクラブ」を開催している。
課 題	登録者の主体的な取り組みを推進するため、活動意向や意見を把握する必要がある。
今後の方向性	趣味や特技を生かしボランティアとして活動していただいております、土日の児童の活動支援に必要な事業であることから、今後も引き続き取り組んでいく。

項 目	生涯学習推進指導員バンクの登録（継続）
目 的	市民の学習機会を拡充するため、豊富な経験や知識、技能をもつ市民を「網走市生涯学習推進指導員バンク」に登録し、学習成果の還元の間を提供するとともに、学習者が自ら学ぶ機会を創出するための指導者情報を提供することを目的とする。
取組実績	・ 登 録 者 24名 ・ 指導内容 37項目（7部門23分野） ・ 指 導 先 まちの達人出前事業講師 網走市民まなびすと講座講師 網走市民てづくりすと講座講師 子ども講座開設事業「ロセトクラブ」講師 子ども講座開設事業「夏休み教室、冬休み教室」講師 ほか
成 果	市民の学習・文化活動に対するニーズは様々だが、学習相談を経て指導者情報を提供することで、市民の生涯学習の充実が図られた。また、指導者の学習成果の還元の間として、指導レベルに応じた指導機会を用意することができた。
課 題	市民が求める学習内容と市民講師の指導内容との適合を意識しながら、登録者の活動機会の提供を進めていく必要がある。
今後の方向性	市民の学習機会を拡充するとともに、指導者への学習成果還元の間を提供することは登録者の資質向上のほか、生きがいの高揚を図る上でも重要なことから、登録者との意見・情報交換や周知PRなどを行い、今後も引き続き取り組んでいく。

（２）学習情報の収集・提供・相談事業の充実

項 目	広報紙、ホームページ、ソーシャルメディア等による学習情報の提供（継続）
目 的	社会教育関係事業の周知を図ることにより、市民の幅広い参加を得て事業を推進する。
取組実績	・ 市広報紙「広報あばしり」に「エコーだより」を掲載 ・ 市ホームページによる情報提供、報道機関への周知・記事掲載 ・ 市公式フェイスブック、ツイッターによる情報提供 ・ 登録者へのメールによる情報提供（お知らせメール@あばしり） ・ 小学校、中学校、幼稚園等関係機関へのチラシ等の配布 ・ ポスターを作成し市内各所に掲示 ・ オホーツク・文化交流センター情報コーナーの充実、館内での講座レポート掲示（サークル活動支援：作品展示、販売など）
成 果	各種媒体の活用により社会教育事業の周知や活動の推進が図られた。
課 題	より効果的なPRのため、情報化社会に対応した手法の研究が必要である。
今後の方向性	引き続き、デザインなどの工夫をしながら広報紙等での周知を図っていく。ホームページやフェイスブックなどのSNSを活用し若い世代を含めて広く情報提供に努める。

(3) 生涯学習関連施設の整備、機能向上

項 目	オホーツク・文化交流センター改修事業（拡充）
目 的	オホーツク・文化交流センター設備更新及び修繕を行う。
取組実績	・空調中央監視システム更新工事 24,860千円 ・ワイヤレスマイク更新工事 4,950千円 ・エコホール舞台吊物機構更新工事 33,550千円
成 果	建設後 22 年が経過し、空調装置の異常や舞台吊物の経年劣化が発生していたことから更新工事を実施したほか、電波法の改正によるワイヤレスマイクの更新を行った。
課 題	設備の耐用年数や安全性を考慮し、定期的な保守メンテナンスを実施しながら、計画的に設備更新や修繕を図っていく必要がある。
今後の方向性	エコセンターは、市民の学習、芸術及びレクリエーション活動の場として重要な施設であることから、今後も安全・安心な施設利用が出来るよう、設備の維持更新に努めていく。

項 目	オホーツク・文化交流センターオンライン予約事業（新規）
目 的	オホーツク・文化交流センターの利便性の向上と施設管理の効率化を図る。
取組実績	・オンライン予約・申請システム整備事業 4,430千円
成 果	公共施設予約システムの導入と運用を通じて、オホーツク・文化交流センター利用者の利便性向上を図るほか、予約管理事務の効率化を実現した。
課 題	デジタルに不慣れな利用者のため、これまで同様に窓口申請も対応可能としているが、徐々にオンラインによる申請を増やしていく取り組みが必要。
今後の方向性	オンライン利用率の拡大を図り、将来的な管理コストの縮減に取り組むとともに、デジタルを通じた市民サービスの向上を図る。

(4) 図書館の充実

項 目	図書館デジタル環境整備事業（新規）
目 的	高齢者をはじめとするインターネットが苦手な方や接続環境のない方、体験する機会の少ない市民が気軽にインターネットや IT 機器を活用できるデジタル環境を整備する。
取組実績	・タブレット機器の更新 3台 ・タブレット利用件数 95件 ・更新後は1階に2台、2階に1台を常設
成 果	機器の更新及び常設により、デジタル環境の整備を図ることができた。
課 題	幅広い年齢層の利用促進
今後の方向性	利用者が気軽に IT 機器に親しみながら、調べ物検索等での利用や電子図書館の体験ができる環境を維持する。

項 目	電子図書整備事業（継続）
目 的	市民が来館せずに 24 時間どこでもいつでもインターネットを利用して電子書籍の閲覧、貸出、返却が可能な電子図書館のサービスを提供する。
取組実績	・電子図書数 導入時（令和2年12月15日）2,000点、令和4年度末4,554点 ・ID・パスワード申込者数790名、利用者数3,137名、貸出冊数15,087冊
成 果	学校との連携によるパスワード一括交付の効果により、若年層（小・中学生）の利用が定着し、利用者数の増加が図られた。
課 題	幅広い年齢層の利用促進
今後の方向性	一括交付未実施校への働きかけを継続するとともに、あらゆる世代が楽しめるような魅力ある資料の収集と、電子図書館の利活用の促進に努める。

項 目	魅力ある図書や幅広い資料の収集・整備・提供（継続）
目 的	新鮮で魅力ある図書や資料の収集を図り、利用者に幅広く情報を提供することにより多くの市民が読書に親しむ環境づくりを推進する。
取組実績	・資料受入数：図書 4,542冊（内購入4,158冊）、雑誌 1,168冊（内購入926冊）、視聴覚資料 67点（内購入37点）、地方資料 342冊（内購入41冊） ・図書館蔵書数：R4年度末 206,669冊（R4年度：購入数5,162冊、寄贈他 957冊） ・図書貸出人数 27,455名、貸出冊数 123,711冊、来館者数（本館）84,984名
成 果	市民の読書に対する興味や関心を深めるために新たな図書や資料の提供ができた。
課 題	書架スペースと収集冊数のバランスを考慮した購入と除籍
今後の方向性	現図書館への移転に伴う購入図書に年数経過による劣化及び陳腐化が生じているため古くなったものの更新を積極的に進め、魅力ある図書や資料の収集を継続する。

項 目	地域分庫事業（拡充）
目 的	市立図書館から遠い地域において、読書に親しむ環境の整備と充実を図るため、地域分庫を設置する。
取組実績	・市内10箇所の地域分庫の維持管理 ・地域分庫利用者数 897名 貸出冊数 1,285冊 ・「分庫だより」の作成・配布（郊外地区4分庫） ・蔵書の入替え・整備 917冊購入
成 果	市内全域にわたる読書機会の充実が図られた。
課 題	地域や施設管理者などとの連携強化
今後の方向性	市内全域にわたる読書環境の整備が図られており、継続開設と蔵書整備や管理運営の充実を図っていく。

項 目	ふるさと学習支援事業（継続）
目 的	地域情報の発信を図書館の役割とし、市民にふるさと網走を学習する機会や資料の提供を図るとともに、小中学生に対する地域学習の支援を行う。
取組実績	- 企画展示の開催（年4回） - 第1回「あばしり再発見」5/18～6/5 期間中来場者 4,435名 - 第2回「北海道の作家」（道みんなの日特別展示）7/14～28 期間中来場者 3,618名 - 第3回「私たちの学び舎」10/29～11/13 期間中来場者 3,956名 - 第4回「メモリアル流氷まつり」2/1～11 期間中来場者 3,110名 ・「ふるさとあばしりコーナー」を設置し、地方資料を紹介
成 果	期間中の来館者に地域課題についての学習機会を提供することができた。
課 題	・地方資料の利用状況等に基づく魅力ある資料展示の検討 ・単発的な展示、紹介から、収集した資料の長期的、系統的なPR方法の検討
今後の方向性	ふるさとあばしりコーナーの資料充実などを通して、市民に対するふるさとの紹介と学習機会の提供を継続する。

項 目	インターネットを活用した蔵書公開（継続）
目 的	インターネットを活用し利用者サービスの向上を図る。
取組実績	・インターネット（図書館ホームページ）による所蔵資料の検索、新着・新刊案内、各種お知らせ、予約サービス等の実施 ・スマートフォン等に対応した利用者サービスシステムの運用 ・令和4年度 アクセス数 270,727件、パスワード新規登録者166名（登録総数 4,675名） ・インターネットによる予約サービス利用 2,441件（予約サービス利用総数 5,922件）
成 果	インターネットの活用により、利用者の利便性が図られた。
課 題	図書館事業や利用方法の周知など、ホームページやSNSの定期的な内容更新が必要
今後の方向性	今後もインターネットを活用した予約サービスの継続とホームページでの情報提供の充実により、利用者サービスの向上を図る。

（５）読書の普及、読書活動の促進

項 目	課題解決型常設展示の実施（継続）
目 的	図書館の本は、規則的に分類・配置（日本十進分類法）されているが、利用者の関心の高いテーマ設定により、分類番号に依らずテーマごとにまとめて配置することで、利用者の利便性の向上を図る。
取組実績	・日本十進分類法とは別に分類して「くらしのコーナー」、「いきいきシニアコーナー」を設置
成 果	利用者の関心の高いテーマであり、図書館活用のきっかけ作りとなっている。
課 題	配置可能な本のテーマやジャンルが限定される。
今後の方向性	配置する本の適切な選定を行いながら、利用者に喜ばれるコーナーづくりをめざす。

項 目	ブックスタート事業の実施（継続）
目 的	乳児期から本に親しむ環境を整え、読書活動の基礎を育むとともに、図書館の利用促進を図る。
取組実績	・ゼロ歳児とその保護者に絵本と図書館利用パンフレットを贈る。（146名） ・子ども名義のかしだしカードの作成（79名）
成 果	乳児期から本に親しむことで、将来の読書活動に結びつくきっかけづくりとなっている。また、親子のコミュニケーションづくりの一助となっている。
課 題	子どもが自分で本を読む年齢になるまでのフォローアップや読める年齢になったときの支援が必要。
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

項 目	学校巡回図書（クリオネ文庫）推進事業（拡充）
目 的	小学校と連携し、児童の身近な場所である学校で本に親しむ環境づくりを進めるため、図書館の本を各教室に配置し、子どもの読書活動の機会の充実を図る。
取組実績	・小学校各教室に30冊ずつ図書を配置。（1～3ヶ月ごとに巡回） ・配置学級数：9校 66学級。配置図書：3,390冊 ・蔵書の入替え・整備 533冊購入
成 果	学校の休み時間や授業等で活用され、小学生が本に接する機会が増えている。
課 題	実施に当たっては、引き続き学校と連携した取り組みが必要。 また、学校図書との役割分担が課題。
今後の方向性	子どもの読書活動の一つとして定着してきており、本の入れ替えを行いながら継続して実施する。

項 目	よみきかせ会・お楽しみ会等の開催（継続）
目 的	子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進を図るとともに、乳幼児を含めた読書環境の充実を図る。
取組実績	・よみきかせ会（えほんのもり 46回 289名参加、子育て支援センター 6回 67名参加） ※「えほんのもり」よみきかせ会は高校生を含むボランティア団体により実施 ・お楽しみ会開催（夏・冬）38名参加 ・一日図書館員体験（夏・冬）35名参加
成 果	よみきかせ会を通じて、子どもの言葉、表現力を磨くことができた。 図書館の仕事にふれることにより、読書の楽しさを知るきっかけづくりが図られた。
課 題	ボランティア団体の会員減少に伴う協力事業の内容の変更。
今後の方向性	広く市民の読書活動を推進するため、継続して実施していく。

項 目	ボランティア団体等との協働による読書機会の充実（継続）
目 的	読書活動に対する多様なニーズに対し、図書館ボランティアとの協働により幅広い読書活動の推進を図る。
取組実績	・対面朗読サービス、視覚障がいの方々への録音サービスの実施、乳幼児向け布絵本の作製、「えほんのもり」でのよみきかせなどを実施 ※高齢者施設等でのよみきかせは、新型コロナウイルス感染予防のため中止
成 果	点字翻訳や朗読CD作成など幅広い読書サービスの提供ができた。
課 題	ボランティアの新たな人材の確保。
今後の方向性	幅広い読書活動の推進のため、今後もボランティア団体との協働による事業を継続する。

項 目	ボランティア養成事業（継続）
目 的	ボランティア団体の学習機会を提供することにより、ボランティア活動を支援し、市民との協働による図書館活動の充実を図る。
取組実績	・外部講師を招いた読み聞かせ講座等を開催 11/12 大人のための絵本セラピー 12名参加 11/26 朗読・読み聞かせ講座 16名参加 ・ボランティア団体メンバーの講師による小物作り講習会を開催 7/28 フェルトの小物作り講座 8名参加
成 果	新たな要素を加味した講座等の開催により、ボランティアの視野を広げるきっかけとなった。
課 題	ボランティア活動の内容充実と参加者拡大のために講座等の内容の工夫が必要
今後の方向性	多様なボランティア活動があるため、今後も各団体の意見を聞きながら、必要に応じた講習会などを開催していく。

項 目	図書館まっりの開催（継続）
目 的	図書館活動のPRによる図書館の利用促進と、市民の読書活動の推進に寄与する。
取組実績	令和4年10月9日（日）開催 ・古本市 来場者223名（主催：あばしり市立図書館友の会） ・子ども俳句・短歌大会 応募数1,016点（展示10/5～9、表彰式10/9） ・チームMints公演 参加者144名、電子図書館体験会 参加者64名 ・しかけ絵本展示 10/5～9 期間中来場者 1,340名
成 果	感染予防に留意しながら3年ぶりにコロナ以前とほぼ同等の規模で開催し、多くの来場者があり、図書館の利用促進及び読書活動推進が図られた。
課 題	今後も関係団体の協力を得て、連携した事業内容や展示の工夫が必要
今後の方向性	市民の図書館利用のきっかけとなることから、今後も市民に親しまれる事業として継続開催していく。

項 目	絵本パック「ベビークリオネ」「プチクリオネ」の貸し出し（継続）
目 的	保護者にとって年齢に応じた選定が難しく悩むことが多い乳幼児向け絵本について、適切な資料を提供し、乳幼児と親が絵本に親しむきっかけとする。
取組実績	司書が年齢別に選定した絵本パックを作り、貸し出す。 ・「ベビークリオネ」（0～3歳向け5冊、20セット）貸し出し：204回 ・「プチクリオネ」（4～6歳向け5冊、10セット）貸し出し：17回
成 果	乳幼児親子の図書館利用が促進され、読書のきっかけづくりとなった。
課 題	今後も親子の利用拡大に向け、絵本の充実や更新が必要
今後の方向性	乳幼児期から本に親しむことで、生涯を通じた読書活動へ結びつくよう引き続き実施していく。

2 社会教育

(1) すべての市民に開かれた学習の場の提供と学習環境の整備

項 目	網走市民まなびすと講座の開設（継続）
目 的	市民生活向上に関わる地域課題や現代的な課題を学習テーマとして講座を開設する。
取組実績	・ 初心者のための手作りみそ友講座（6月）8名 ・ 原子模型を作ろう（8月）8名 ・ ウィルタ刺しゅう入門講座（10～11月全4回）6名（延べ19名） ・ 初心者のための手作りみそ友講座（11月）7名
成 果	食生活や伝統文化、科学などをテーマとした講座を講師とともに企画開設し、市民生活の向上につなげている。
課 題	市民が地域での問題点や課題を解決するきっかけとなる学習の機会として、常に地域や市民活動に関心を払っていかねばならない。
今後の方向性	関係機関や市民との連携、協働により地域の課題の把握に努めながら学習機会を提供していく。

項 目	網走市民てづくりすと講座の開催（継続）
目 的	市民が自ら講座を開催する際の支援をし、指導技術の向上やサークル活動の活性化を図る。
取組実績	・ アロマワックスサシェと消臭剤作り（6月）10名 ・ クラフトバンドでバスケット作り（6月）9名 ・ フラワーアレンジメント体験（7月）5名 ・ 浴衣講座（3回連続講座）（7月）延17名 ・ プリザーブドフラワーアレンジメント体験（11月）18名 ・ クラフトバンドでリース作り（12月）18名 6講座、延77名
成 果	市民やサークルのボランティア講師により、多彩な内容の成人講座を開設することができた。
課 題	学習成果の還元を開催目的とするほか、市民の要望に応じた分野、開設時期などを検討する必要がある。
今後の方向性	市民の学習成果還元の機会として、主体的な講座開設とサークル活動の活性化につなげていく。

項 目	北海道科学大学との連携講座の開催（継続）
目 的	北海道科学大学と連携し、市民が幅広い分野について学ぶことができる公開講座を開催する。
取組実績	■北海道科学大学連携講座 「VRで網走を楽しもう！」 ① 2月4日（土）オリエンテーション（VR体験、雪像撮影） ② 2月11日（土）雪像撮影、画像編集、完成品視聴 参加者延17名
成 果	360度カメラでの撮影やVR体験、動画編集体験を通じて、最新の情報技術に触れ、網走の子どもたちの学習意欲の向上を図った。
課 題	大学の知的財産と市民が求める知識、地域課題の解決につながる講座内容との適合
今後の方向性	北海道科学大学やOB会と連携して、充実した講座を開催していく。

項 目	あばしり学講座の開設（継続）
目 的	網走の魅力や価値を再発見、再確認するために自然環境や歴史的資源を活用しながら、歴史・文化・産業等をテーマとする講座を創設し、参加者同士の交流を深め、学びからまちづくりやひとづくりを進め、地域の活性化を目指す。
取組実績	■単講座 ①「網走湖徹底調査&網走川下り」（7月）参加者18名（ボランティア10名） ②「網走ローカル魅力発掘発信ワークショップ」（8～9月2回）参加者延19名 ③「網走産かぼちゃでジャック・オ・ランタンづくり」（10月2回）参加者延35名 ④「VRで網走を楽しもう！」（2月2回）参加者延17名 ■ロセトコース（対象：小学4～6年生） ①「生き物採取体験！in 能取湖」（7月）参加者6名 ②「網走湖徹底調査&網走川下り」（7月）参加者8名 ③「リサイクルアート体験！～海で材料を拾おう～」（8月）参加者6名 ④「リサイクルアート体験！～作品づくり～」（8月）参加者6名 ⑤「秋の野山を探索！」（9月）参加者9名 ⑥「あばしりの鮭を知る見る食べる！」（10月）参加者9名 ⑦「中間報告&体験報告会」（11月）参加者5名 ⑧「雪像づくり」（11～2月）参加者延40名 ■学生HERO'S（対象：中学・高校・大学生） ①「ボランティア研修会」（6月）参加者15名 ②「単講座ロ・セトコース活動支援」（7～2月、全9講座）参加者延79名 ③「あばしり科学フェスティバル支援」（7月）参加者9名 ④「子ども会サマーデイキャンプ支援」（8月）参加者6名 ⑤「ハロウィーンパーティ2022支援」（10月）参加者延24名 ⑥「あばしり市子ども大会支援」（12月）参加者5名 ■青年講座 U-35（対象：18～35歳） ①「ハロウィーンパーティ2022支援」（10月）参加者15名 ②「雪像づくり」（1～2月）参加者延70名
成 果	各世代に体験学習を通じて、網走の自然や産業の魅力についての学びを提供したほか、学生HERO'Sについては、高校生・大学生がジュニアリーダーとしての役割を担うとともに、異世代との交流の中で社会的役割を認識しながら郷土を学ぶ機会となった。
課 題	まちづくりや人づくりにつながる題材の研究や手法の工夫によって魅力ある講座づくりを進めることが重要である。
今後の方向性	関係機関との連携により、参加者相互の交流を含めて網走の魅力の発信と新たな文化の創造につながる講座展開に取り組んでいく。

項 目	寿大学の開設（継続）
目 的	社会の変化に適応するために必要な知識や生活技術の習得、健康の維持など、積極的な高齢者の生きがいを求める学習の場を提供する。
取組実績	・大 学 開設日 4月～翌年3月／第2・第4水曜日 会 場 エコーセンター2000 内 容 一般教養講座（全11講座） クラブ活動、自治会活動、入学式、賀寿祝賀会、意見発表会、卒業式並びに修了式 ・大学院 開設日 4月～翌年3月／第3水曜日 会 場 エコーセンター2000 内 容 郷土史コース（1年）、自分史コース（2年） 開設数10回 ・在籍数 186名（1年19名、2年14名、3年20名、4年11名、大額院21名（1院14名、2院7名）、生涯研究生101名
成 果	高齢者の生きがいや生活技術の習得と社会参加の促進のために必要な学習機会を大学自治会の協力により提供できた。学年別学習やクラブ活動は、仲間づくりの機会ともなり、高齢者の学習意欲の更なる高揚が図られた。
課 題	一般教養講座では、高齢者の生活課題を学習テーマとすることが重要。また、クラブ活動や自治会活動を通して学んだ成果を社会参加やボランティア活動に繋げていくことを奨励する必要がある。
今後の方向性	高齢者の学習意欲に対応するとともに、学年別学習、自治会活動、サークル活動を通じた社会参加や地域交流を促進することにより、高齢者の知識や技術等を広く市民や後世に伝える大切さを指導していく。

項 目	暮らしをデザイン 2022 の開催（継続）
目 的	市民一人ひとりが家庭や学校、地域社会における男女平等意識の高揚を図るため、女性学、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスなど、現代的生活課題を学習する講演・学習会を開催する。
取組実績	・開設日 2月18日（土）10:00～11:30 ・講演名 「New Family 新しいかぞくのカタチ～LGBTQについて学ぼう～」 （会場及びオンラインによるハイブリット形式の講座） ・講 師 株式会社ニューキャンパス 代表 杉山 文乃 氏 ・会 場 エコーセンター2000視聴覚室 ※Zoom参加者は各自宅からオンライン参加 ・内 容 LGBTQの基本に加え、講師自身の体験をもとに「当事者の大切さ」、「当事者でない方のウェルカミングアウトの姿勢の大切さ」、「日本・世界のLGBTQへの認知の現状」など。 ・参加者 20名（会場参加17名、Zoom参加3名）
成 果	社会でも課題となっている性的マイノリティであるLGBTQへの理解を深める機会を提供することができたとともに、市民意識の高揚につながる機会の創出が図られた。
課 題	住民が課題と感じていることを知り、テーマに取り入れる地域課題の発掘と周知方法の検討が必要である。また、幅広い世代の生活などを見つめなおす機会とするためには、課題を共有しながら相互理解を深めるテーマやプログラムを研究していく必要がある。
今後の方向性	様々な現代生活の課題や社会の課題に関しての学習機会を設け、市民生活の向上につなげていくため、講演内容や開設方法を研究していく。

(2) 子どものための学習や体験の場の提供

項 目	放課後子ども教室推進事業（継続）
目 的	子どもたちが放課後や週末を安全で安心して活動できる場を市内小学校区に開設し、市民団体の個性を活かしたプログラムを通じて、体験・交流を目的とした「子どもの居場所」の提供を行う。（通称：遊村あばしり）
取組実績	実施主体：網走市放課後子ども教室推進事業実行委員会 ・開設日 5月～翌年2月／平日15時～17時／休日10時～12時 ・開設数 368回 ・会 場 市内8カ所（コミュニティセンターほか） ・指導者 市内5団体（指導者26名） ・内 容 ①キックベースボール、トランポリン、スポーツライティング、合唱 ②遊び、水泳、書道、読み聞かせ、学習支援ほか ③遊び、学習、工作ほか ④語学学習、工作ほか ⑤アート体験 ・参加数 207名（延2,929名）
成 果	NPO法人等有償ボランティア活動として実行委員会を組織し、それぞれの団体の個性を活かした学習・体験プログラムを提供することにより、子どもたちの放課後や週末に安全で安心な居場所を開設できた。
課 題	国費補助の状況が変化中、教室の安定的な運営を図る必要がある。 持続的な子どもの居場所を確保するため、指導者の確保・育成が必要である。
今後の方向性	地域の指導者や安全な活動場所の確保を図りながら引き続き取り組んでいく。

項 目	あばしり科学フェスティバルの開催（継続）
目 的	子どもたちが、理科や数学などを体験的に学べる科学ブースを市民が企画し、ボランティアなどの支援を通じて一つのイベントとして運営することで、網走の子どもたちの科学する心を育むとともに、子どもと大人との交流の場を醸成する。
取組実績	実施主体：網走市子どもフェスティバル実行委員会、網走市教育委員会 ・開催日時 7月24日（日）10:00～12:00 ・会 場 オホーツク・文化交流センター 学習室 ABC ・開催内容 サイエンスコーナー6ブース ・参加者 37名 ※新型コロナウイルス感染対策として定員を設け開催 ・参加スタッフ 37名
成 果	令和4年度は、新型コロナウイルスの感染拡大対策として、6ブースのみの設置とし、定員を設けての開催となったが、子どもたちが理科や算数の原理を身近なものとして捉えることができる機会を創出できた。
課 題	市民指導者、スタッフの育成などが必要である。
今後の方向性	ほかの社会教育事業との連動により、市民指導者・スタッフのさらなる育成、東京農業大学との連携などに努めながら取り組んでいく。

項 目	ロセトクラブの開催（継続）
目 的	子どもの余暇活動を支援するため、市民ボランティアの指導者により学習機会を提供し、子どもの創造性や探求心を高めるとともに、個性や自主性を向上させる。
取組実績	■ロセトクラブ（単講座） 4月～翌年3月／23教室 参加者延366名 内 容：学習支援、工作、書道、けん玉など ■ロセトクラブ（長期講座） 6月～翌年3月／14回 参加者延49名 内 容：ヴァイオリン教室 指導者：子どもと遊ぼうボランティア隊7名
成 果	家庭、学校、地域の教育力の実態に配慮しながら、これを補完する形で子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供することができた。
課 題	市民ボランティアの主体的な企画運営としているため、開催時期や定員数などで指導者側と参加者側のニーズが異なることがある。
今後の方向性	指導者と職員が連携を図り、より効果的な運営方法を研究していく。

項 目	中学生、高校生への自習室開設（継続）
目 的	オホーツク・文化交流センターの空き室を中学生・高校生の自主学習の場として開放することにより、青少年の居場所づくり、学力向上に資する。
取組実績	① 8月27日（土）～28日（日）、9月3日（土）～4日（日） 利用者 24名 ② 11月12日（土）～13日（日）、11月19日（土）～20日（日） 利用者 26名 ③ 2月4日（土）～5日（日）、2月18日（土）～19日（日） 利用者 22名 ・開設場所 オホーツク・文化交流センター 学習室・研修室（空室解放） ・開設時間 午前9時～午後7時まで（中学生は午後6時まで） ・利用対象 中学生、高校生（大学生、専門学校生は除く）
成 果	テスト期間前の土曜日・日曜日を開設日とし、市内各中学校・高校へ周知を図り、空室を開放した。市外の高校に通う生徒の利用もあり、一定の利用が図られている。
課 題	開放する自主室が満席となった場合は、必然的に図書館で学習する学生が増えることから、利用者が増加した場合の部屋確保が課題である。
今後の方向性	施設運営に支障のない範囲で利用者の要望を反映しながら今後も取り組んで行く。

項 目	子どもと動物ふれあい事業（継続）
目 的	動物とのふれあいは、子どもの情操の発達に有効であることから、子どもたちに動物とふれあう機会を設け、生命を大切にし、心豊かな子どもの育成を図る。
取組実績	・開 催 日 全7回（6/12、6/26、7/24、8/7、8/21、9/4、9/18）全て日曜日 ※7/10（日）は雨天中止 ・会 場 呼人スポーツ・トレーニングフィールド ・内 容 ウサギ、ハムスター、モルモット、ヒヨコ ・参 加 者 1,422名（子ども736名、大人686名）
成 果	子どもにとって動物との接触は、楽しく貴重な体験であり、情操の発達に役立っている。
課 題	動物の負担や飼育状況を飼育委託先の団体と連絡調整しながら、開園手法を研究する必要がある。
今後の方向性	毎年、多くの市民が楽しみに来場されることから、今後も継続して実施する。

項 目	子ども夢育事業（継続）
目 的	中学生を対象に、夢や人生などをテーマとした文化講演を開催し、夢を持って生きることの大切さを学び、感性豊かな心を育むことでたくましく生きる力を形成する。
取組実績	・開催日 11月15日（火） ・会 場 網走市民会館 大ホール ・講 師 毛利 衛 氏（元宇宙飛行士） ・内 容 高校1年生の夏に網走で見た皆既日食に感動したことをきっかけに、宇宙について学び、宇宙飛行士になる道を強くしたエピソードを披露するとともに、宇宙での生活や実験内容について解りやすく解説。 ・参加者 292名（市内中学校2年生・教職員等）
成 果	夢を持つこと、夢に向かって努力することの大切さなどを、講師の体験談を通じて学習することで、中学生が人生において大切なことを学ぶ機会となった。
課 題	講師選定や開催時期、場所、手法などについて学校との連携調整が必要
今後の方向性	学校と連携し、効果的な開催手法を研究しながら事業を進めていく。

項 目	夏・冬休み教室の開催（継続）
目 的	子ども（小学生）の夏休み、冬休みの活動を支援するとともに、創造性や探求心を育む教室を開催し、子どもの個性や自主性を向上させる。
取組実績	■夏休み教室（2教室、全3回、参加者21名） ①「アロマワックスサシェを作ろう」（全2回）参加者延19名 ②「夏休み学習サポート教室」 参加者2名 ■冬休み教室（12室 全2回、参加者21名） ①「まんまるうさぎファクトリー」参加者12名 ②「漢字を楽しもう」参加者7名
成 果	家庭、学校、地域の教育力の実態に配慮しながら、これを補完する形で子どもの心身の健康・成長に資する学習機会を提供できた。
課 題	子どもを対象とした創作体験事業を検証・評価し、網走の魅力や価値に関心を寄せることができる学習プログラムを今後も引き続き検討する必要がある。
今後の方向性	夏休み・冬休みでの多様な学習プログラムを今後も検討していく。

(3) 学習成果を還元する機会の充実

項 目	学校支援地域本部事業の実施（継続）					
目 的	子どもたちの教育のために役に立ちたいとの思いを持つ市民ボランティアと学校のニーズをマッチングさせ、家庭・学校・地域が一体となって、子どもを育てる体制を整える。					
取組実績	実施主体：網走市学校支援地域本部事業実行委員会					
	登録件数	個人	178名			
		団体	19団体			
	支援内容	学習支援活動	13校	42件	ボランティア延数	671名
		部活動指導補助	2校	2件	ボランティア延数	165名
		環境整備支援	2校	2件	ボランティア延数	28名
		登下校安全指導	8校	8件	ボランティア延数	3,276名
		学校行事補助	1校	1件	ボランティア延数	12名
	その他の支援	4校	5件	ボランティア延数	111名	
	合計	15校	60件		4,263名	
成 果	平成 20 年度の実施以来、事業についての市民、教員の理解も進み、活動が定着している。					
課 題	学校からの要望に対応できる体制の整備とボランティアの育成					
今後の方向性	市内全小中学校で導入されたコミュニティスクールと連携を図りながら、推進体制の整備を行い、事業を継続していく。					

項 目	まちの達人出前事業の実施（継続）
目 的	豊富な経験や知識・技能をもつ市民の方が、その力を学校からの依頼のもと、授業行使として活かすとともに、講師の謝金を支援し、生涯学習の推進を図る。
取組実績	・対 象 市内小中学校の授業 ・要 件 1校あたり原則3回を上限とする。授業時間は、1回2時間程度とする。 ・支援内容 講師謝金を支援する。 ・事業実績 11校25件 市民講師 8名3団体 ・教科内容 総合的学習13件、体育指導6件
成 果	総合的な学習の時間を中心に、地域の歴史・文化・マナーを学ぶために地元の人材が活用された。また、防災や茶道、体育などの専門的な科目において、技術・知識を持つ市民が指導にあたった。
課 題	「学校支援地域本部事業」と本事業の調整を図り、市民の力で網走の子どもの学習を支援する事業として定着させていくことが必要である。
今後の方向性	学校職員への周知に努めるとともに、「学校支援地域本部事業」も含めた中で、市民の学習成果の社会還元の一つとして推進を図っていく。

3 家庭教育

(1) 家庭教育の支援

項 目	家庭教育学級、家庭教育フォーラムの開催（継続）
目 的	家庭生活や地域課題に基づいた講座を開設し、豊かな市民生活、家庭教育環境づくりを支援する。
取組実績	■家庭教育フォーラム兼網走市父母と先生の会連合会研究大会 ・開催日 10月1日（土） ・会 場 エコーセンター2000 エコーホール ・参加者 170名 ・講 演 「非行と反抗がおさえられない子ども ～その背景に隠れているものとは～」 ・講 師 精神科医 富田 拓 氏（網走刑務所医務課医師、北海道家庭学校樹下庵 診療所医師） ■家庭教育学級 ・郊外地区（呼人小中学校） 7月18日 金印わさび(株)オホーツク工場見学 参加者14名
成 果	精神科医である富田 拓 氏を招いての家庭教育フォーラムでは、PTAを中心に170名の参加者があり、子どもの心理や心的外傷後ストレス（PTSD）への対処法などを学び、家庭教育の環境づくりについての思慮を深めた。
課 題	学校や父母と先生の会連合会などとの連携による事業のため、取り組む過程の中で事業目的についての共通理解を得ることが必要である。
今後の方向性	子育て・家庭教育に関する講座は、趣旨を充分伝え、父母と先生の会連合会などの市民の声を反映させたプログラムの編成を行いながら実施していく。

項 目	幼児を育てる親の子育て講演会（継続）
目 的	ライフスタイルの多様化、核家族化、少子化の影響により、子どもを育てる環境が変化している中、子育てに迷い、悩みを抱く親が多くなっていることから、幼児期の子育てに精通した講師を招き、情報の提供を行い不安の解消に努める。
取組実績	■保育従事者向け講演会 ・開催日 6月28日（火）19:30～21:00 ・講演名 「いま、求められている保育の質とは」 ・講 師 東京大学名誉教授 汐見 稔幸 氏（全国保育士要請協議会会長） ・参加者 48名 ■保護者向け講演会 ・開催日 6月29日（水）10:00～11:30 ・講演名 「子どもたちの『やる気スイッチ』をこうして入れよう！」 ・講 師 東京大学名誉教授 汐見 稔幸 氏（全国保育士要請協議会会長） ・参加者 78名（会場47名、オンライン31名） 託児12名
成 果	令和4年度より子育て支援課との連携事業として、「保育従事者向け講演会」と「保護者向け講演会」との2講演を実施し、より多くの幼児教育関係者に講演参加機会の提供が行えている。また、保護者向け講演会では、オンラインを活用したハイブリット形式での講演会とし、さらに幼児を抱える受講者も安心して参加できるよう託児も行い受講環境を整えている。
課 題	子育ての不安などを聞き取り、解決できるような講座内容を研究し、開設方法を研究していく。
今後の方向性	子育て支援課や子育て支援センターなどと連携し、幼児教育の環境づくりの充実を図っていく。

(2) 子どもを育む地域力育成の支援

項 目	豊かな心を育てる活動推進会議事業の支援（継続）
目 的	子どもたちの豊かな心を育てるための啓発活動を行う「豊かな心を育てる活動推進会議」が行う事業を支援する。
取組実績	実施主体：豊かな心を育てる活動推進会議 ■豊かな心を育てる小中学生の意見発表会 「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「勇気」「やり抜く力」などをテーマに、自分の考えや体験したことを発表する機会を設置 ・開催日 1月28日（土）13：30～15：00 ・会場 オホーツク・文化交流センター エコーホール ・参加者 市内小中学校代表 児童・生徒 14名（小学生8名、中学生6名） ・来場者 150名 ■啓発活動、標語募集 「あいさつ」「親切」「環境・美化」「命の大切さ」「家族」「働くこと」の各テーマから選んだ標語を募集し、入選30作品を活用したカレンダーを作成 ・応募数：1,274点（内オンライン応募数766点（60.1%））※令和4よりオンライン応募実施 ・カレンダー作成：2,000枚（市内関係機関に配布）
成 果	新型コロナウイルスの感染拡大による対策のため、事前に意見発表の映像を提出してもらいなどの対策を講じて意見発表会を開催した。また、標語募集において初めてオンライン応募ができる仕組みを構築し、オンライン応募が全応募数の6割を超えた。
課 題	標語募集にあたり、高学年と低学年が同一テーマであると、高学年が選ばれる可能性が高くなる傾向があるため対策を検討する。
今後の方向性	青少年の健全育成を推進するために必要な取り組みであり、今後も推進していく。

4 芸術文化

(1) 文化活動の促進

項 目	文化団体の活動支援（継続）
目 的	市内文化団体で構成される網走市文化連盟が、広く市民対象に行う郷土文化振興事業に対して助成することにより、市民文化の振興・発展を図る。
取組実績	実施主体：網走市文化連盟 ■第23回市民文化フェスティバル（9月～12月） ①市民華道展 9月16日 ②子ども書道展（小学生） 9月21日～26日 ③市民盆栽展 9月30日～10月2日 ④市民書道・俳句・絵画展 10月18日～23日 ⑤市民舞台発表会 10月23日 ⑥子ども絵画展（小学生） 11月 3日～8日 ⑦市民合唱祭 11月 6日 ⑧子ども書道・絵画展（幼児・中学生） 11月30日～12月4日 ■文化功労者顕彰式 11月3日 ・網走芸術賞：小堀義子（詩吟：岳風会） ・網走文化功労賞：金子美智子（書道：書道連盟）
成 果	市内文化団体の発表の場となる展示会、舞台発表会などを開催し、市民の文化活動の振興を図ったほか、永年、文化活動に従事し、文化振興に貢献した市民の表彰を実施した。
課 題	文化団体の高齢化、文化連盟事業の持続性についての課題があり、文化連盟内で議論協議が行われている。
今後の方向性	市民の文化活動の振興・発展のため、文化連盟の意向を確認し、必要な支援を今後も継続していく。

項 目	文化芸術振興褒奨金事業（継続）
目 的	文化芸術分野において、全国大会等に出場する個人・団体等へ支援を行い、文化芸術の振興を図る。
取組実績	■網走南ヶ丘高等学校 放送局 ・第69回NHK杯全国高校放送コンテスト（校内放送活動研究集会ラジオ・ドキュメント部門）出場 ■網走桂陽高等学校 ボランティア部 ・第46回全国高等学校総合文化祭（ボランティア部門）出場
成 果	市内高等学校の全国大会出場に対し、報奨金を支出しその活動の支援を行った。
課 題	広く事業を活用してもらうため、広報周知が必要。
今後の方向性	文化芸術活動の意欲向上のため、報奨金制度について広く広報PRを図る。

項 目	網走市民大学の開催（継続）
目 的	幅広いジャンルの講師を招聘し、市民に学習機会を提供する事業に対し支援することにより、市民の学習意欲を高め、新しい知識の習得や教養の向上を図る。
取組実績	実施主体：網走市民大学 ■第47期 網走市民大学講座 ・開設日：7月～10月、講座数：全5講座 ①「コミュニケーションのヒント」 作家・演出家 鴻上 尚史 氏（7月7日開催、参加者199名） ②「からだが喜ぶ このこの活用法」 東京農業大学学長 江口 文陽 氏（7月28日開催、参加者125名） ③「小規模校こそ面白い！高校の魅力づくり」 北海道大空高校校長 大辻 雄介 氏（8月25日開催、参加者123名） ④「世界7大陸を走って学んだ折れない心」 アドベンチャーランナー 北田 雄夫 氏（9月14日開催、参加者116名） ⑤「コロナ禍で失われた健康を取り戻す～ウィズ・コロナの生活スタイル～」 産婦人科医・タレント 丸田 佳奈 氏（10月29日開催、参加者193名） ・会 場：オホーツク・文化交流センター エコーホール ・内 容：自然科学・人文科学など ・参加数：全講座登録者126名、単科講座受講者205名、延受講者756名
成 果	市民主体の運営組織により、幅広いジャンルから講師陣を招聘し、市民の学習意欲を創出する講座を企画し、市民大学として円滑な運営が行われた。
課 題	市民の生活や趣向、地域課題に寄り添った学習内容が編成されているが、幅広い層への参加拡大や講師選考など限られた予算の中で効率的な運営を図ることが求められる。
今後の方向性	学習プログラムの編成方法などの検討や市内の他の団体・機関で企画される講演会等との情報共有を図ることにより、ねらいとテーマを明確にしたうえで講師選定などに工夫しながら引き続き取り組んでいく。

項 目	芸術文化合宿誘致事業への支援（継続）
目 的	芸術文化団体の合宿受け入れを行い、市民との交流推進と芸術文化の向上を目指す「芸術文化合宿実行委員会」が行う事業に助成を行い、芸術文化活動の拠点となる体制づくりを進める。
取組実績	実施主体：網走市芸術文化合宿実行委員会 ①第26回オホーツクバンドクリニック ・日 時 5月6日（土）～8日（月）3日間 ・会 場 オホーツク・文化交流センター ・内 容 音楽家 天野正道 氏と陸上自衛隊第5音楽隊を招いて管内の小中高校を対象とした合同講座を開催。 ・受入人数 網走市外193名（内宿泊者30名、延60泊） ・支援内容 会場費の支援 ②山中能舞台（大阪府大阪市） ・日 時 7月5日（火）～8日（金）4日間 ・会 場 オホーツク・文化交流センター ・内 容 山中能の全国の弟子を招集しての能合宿を実施。 ・受入人数 33名（内宿泊者33名、延99泊） ・支援内容 会場費の支援、市内移動手段の支援 ③札幌大谷大学芸術学部美術学科 ・日 時 7月14日（木）～16日（土）3日間 ・会 場 市内 ・内 容 網走の風景の写生合宿を実施。12月15日（木）～27日（火）にオホーツク・文化交流センター展示室にて合宿成果展開催。 ・受入人数 14名（学生13名、教員1名）（内宿泊者14名、延28泊） ・支援内容 市内移動手段の支援、成果展開催時の会場費・広報周知支援 ④川崎ドラム教習所（神奈川県川崎市） ・日 時 2月4日（土）～5日（日）2日間 ・会 場 オホーツク・文化交流センター ・内 容 市内小中高生・市民を対象としたドラム教室・メンテナンスセミナーを開催。 ・受入人数 1名（延1泊） ・支援内容 会場費の支援、広報周知支援
成 果	オホーツクバンドクリニックの誘致を行い小中高生の吹奏楽のレベル向上を図ったほか、例年、網走に合宿に来てくれている山中能、札幌大谷大学芸術学部の合宿支援を実施した。また、新たな団体として川崎ドラム教習所の合宿を実施し、市民に初めてとなるドラム講座を開催した。
課 題	芸術文化団体の合宿地として定着するためには支援体制と併せ、合宿先として選択されるための魅力ある資源のPR活動が必要。
今後の方向性	実行委員会が主体となって、合宿団体への支援体制の充実や網走の魅力について広報PRに取り組んでいく。

項 目	ふるさとアーティスト公演事業（継続）
目 的	網走市にゆかりのあるアーティストに発表の場を提供し、市民との交流を深めることで、様々なジャンルの優れた芸術文化の専門家たちの活動拠点となるような環境づくりを目指す。
取組実績	■ふるさとアーティストフェスティバル in ABASHIRI VOL. 4 ・開催期間 8月30日（火）～9月4日（日） ・会 場 オホーツク・文化交流センター（エコーホール、アトリウムロビー他） ・入 場 料 3ステージ共通（一般）1,000円、（中学生以上大学生以下）500円、各ステージ券500円 ・招聘アーティスト 13組24名 ①ステージ公演（エコーホール） ・9月2日（金）18:30～20:30 パフォーマンスステージ 出演者：伝道詩人えいた、キリガミスト千陽、M i y a B（Galenus） ・9月3日（土）14:00～14:30 ダンスステージ 出演者：Y O S H I N O R I（RollupBrothrez）（K3ダンスカンパニーとコラボ） ・9月3日（土）14:30～17:20 歌のステージ 出演者：ティファ、町屋雄三（東風平高根とコラボ）、蛇足鈍也、遠藤雅人（3-NOTE） ・9月4日（日）14:00～16:30 楽器のステージ 出演者：木田敦子、登藤慎五、菊地伸二、田村まさか、澤目未樹（AQUAMUSE） ②ロビーコンサート（アトリウムロビー） ・9月3日（土）木田敦子と宮城杜桜の会による琴コンサート ③作品展示・ギャラリートーク（展示室） ・8月30日（火）～9月4日（日） ・展示者：伝道詩人えいた、キリガミスト千陽、土屋豊（蛇足鈍也）、葛西由香、渡部万里子、長谷川誠、道山芽生 ④アーティスト交流会（リハーサル室） ・9月3日（土）17:45～ 網走の特産品の軽食を囲んでの交流会 ⑤あばしり七福神まつりステージ公演 ・出演者：町屋雄三と東風平高根、3-NOTE、登藤慎五、キリガミスト千陽 ⑥FMあばしりでの公演PRおよびライブ放送 ・スポットCM（8月4日～8月31日の期間に放送 計20回） ・事前広報番組「もうすぐ開催！ふるさとアーティストフェスティバル」（8月1日～8月30日の期間の月曜日・水曜日、約10分間） ・「歌のステージ」ライブ放送（9月3日（土）15:00～17:00）
成 果	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、感染対策を講じながらステージ公演などを実施した。また、七福神まつりとの連携、参加アーティスト同士の交流会などを企画し、市民との交流及び参加アーティストの交流機会を創出することができた。
課 題	フェスティバルと地域イベントとの連携強化などを通じて、ふるさとアーティストと市民との交流機会を増やし、ふるさとアーティストを応援する仕組みを構築し、まち全体の賑わい創出につなげるための取り組み方法を検討する必要がある。
今後の方向性	地域イベントとの連携を一層強化し、網走がアーティストの活動拠点となるよう、また、フェスティバルがまちの賑わいづくり、芸術文化の振興につながるよう事業の充実を図っていく。

項 目	アトリウムロビーコンサート（継続）
目 的	エコセンター2000 の来館者に気軽な鑑賞機会を提供するとともに、市内の音楽活動家や団体の活動発表の場となるよう、アトリウムロビーを活用したコンサートを開催する。
取組実績	①オホーツク岳風会網走支部・踊翠流剣詩舞鶴双会網走支部 6月18日（土）11:00～12:00 大合吟、独吟、剣詩舞他 聴衆数 20 名 ②寛二 8月27日（土）11:30～12:30 初恋他 8 曲 聴衆数 80 名 ③おかみさんバンド 12月10日（土）11:30～12:30 グッバイマイラブ他 7 曲 聴衆数 60 名 ④アンサンブルAO（クラリネットアンサンブル） 12月17日（土）11:30～12:30 聖者の行進他 5 曲 聴衆数 70 名 ⑤jet MELODY HOUSE 潮見教室 12月24日（土）11:30～12:30 ミッキーマウスマーチ他 21 曲 聴衆数 60 名 ⑥琴伝流大正琴 瑠璃の会 網走ドリーム 1月21日（土）11:30～12:30 ダイアナ他 5 曲 聴衆数 40 名 ⑦子ども合唱団 オホーツク KID' S コール 2月25日（土）11:30～12:00 さんぽ他 11 曲 聴衆数 80 名
成 果	令和4年度は、7 団体・個人のロビーコンサートが開催され、音楽や合唱、詩吟などの愛好者の発表機会の場となり、市民にも音楽などに気軽に触れる機会を提供できた。
課 題	より多くの市民音楽家や団体、サークルが活動成果の発表の場となるよう、市民周知と合わせ、活動機会の醸成を図っていく必要がある。
今後の方向性	市民音楽家や団体、サークルが気軽に活動成果を発表できるよう、情報提供を実施する。

項 目	にじいろ音楽祭（継続）
目 的	障がい者への学習支援体制の整備に取り組み、障がい者の社会活動を支援する。
取組実績	令和4年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より中止。
成 果	
課 題	障がい者の社会活動を支援する仕組みづくりと体制づくりが必要。
今後の方向性	障がい者の社会活動を一層支援するための取り組みを検討していく。

(2) 鑑賞機会の拡大

項 目	オホーツク・文化交流センター芸術文化事業の開催（継続）
目 的	優れた芸術文化の鑑賞機会を市民に提供するため、市民企画などを取り入れ、オホーツク・文化交流センター主催事業として実施する。
取組実績	①伝統芸能 能楽「ようこそ 能の世界へ！」 ・開催日時 10月1日（土）14:00～16:00 ・会 場 市民会館 大ホール ・出演者 山中能舞台 ・入 場 料 一般 3,000 円、高校生以下 1,000 円（当日券各 500 円増） 親子ペアチケット 3,000 円（親 1 名、子 1 名）※子は高校生以下 ・入場者数 139 名 ・演 目 舍利 ・市民協力 ホールボランティア 10 名、オホーツク芝能実行委員会 6 名 ②東京ブラススタイル ・開催日時 10月16日（土）14:00～16:00 ・会 場 市民会館 大ホール ・出演者 東京ブラススタイル ・入 場 料 一般 2,500 円、高校生以下 1,000 円（当日券各 500 円増） ・入場者数 151 名 ・演奏曲目 A列車で行こう他 ・市民協力 ホールボランティア 14 名 ③親子クラシック 2022「クラデビ 赤ちゃんと一緒にクラシックデビュー」 ・開催日時 12月2日（金）19:00～20:00 エコーセンター2000 アトリウムロビー - と会場 12月3日（土）10:30～11:30 エコーセンター2000 エコーホール ・出演者 五十嵐彩子（フルート）、斉藤裕太（ヴァイolin）、眞岸祥平（ピアノ） ・入 場 料 無料 ・入場者数 12/2（金）100 名、12/3（土）143 名 計 243 名 ・演奏曲目 エルガー/愛の挨拶、ディズニー他 ・市民協力 ホールボランティア 8 名（12/2 4 名、12/3 4 名） ④土田英順チェロコンサート（東日本大震災チャリティコンサート） ・開催日時 11月3日（木・祝日）11:30～12:30 ・会 場 エコーセンター2000 アトリウムロビー ・出演者 土田英順（チェロ） ・入 場 者 50 名 ※入場料無料（募金箱設置） ・演奏曲目 アヴェマリア他 ・市民協力 ホールボランティア 1 名
成 果	東京ブラススタイルの公演が出演者の体調不良により 7 月から 10 月に延期となったが、予定していた 4 公演を開催し、市民に芸術文化の鑑賞機会を提供することができた。
課 題	市民ニーズの把握を行い、優れた芸術鑑賞の提供を行うため、市民の企画提案を取り入れながら事業の推進を図る。
今後の方向性	市民ボランティアや市民企画団体など、市民との協働により事業運営を図り、優れた芸術鑑賞機会を市民に提供する。

項 目	あばしりファミリー劇場（継続）
目 的	子どもたちに、質の高い優れた舞台芸術鑑賞の機会を提供する「あばしりファミリー劇場実行委員会」が行う事業に助成し、子どもたちの舞台芸術に対する関心を高め、感性豊かな人格形成をめざす。
取組実績	■ひのき屋「わいわい音楽隊」 ・開催日時 9月11日（日）14:00～15:10 ・会 場 市民会館 大ホール ・出演者 8名（キャスト5名、スタッフ3名） ・入 場 料 一般 500 円（4 歳以上） ・入場者数 175 名
成 果	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、感染対策として会場の広い市民会館にて開催し、子どもたちに楽しい音楽鑑賞の機会を提供した。
課 題	市民実行委員会による効率的で安定した企画運営が必要。
今後の方向性	親子で一緒に鑑賞できる数少ない芸術鑑賞事業であり、市民実行委員会で運営方法を検討しながら、引き続き実施する。

項 目	青少年音楽教室（継続）
目 的	プロの演奏家またはプロに準ずる指導者を迎え、市内の小・中・高校の吹奏楽部員を対象に管弦楽器の指導を受け、技術の向上と音楽性の高揚を図りながら、青少年の音楽文化の振興を目指す。
取組実績	実施主体：網走市クラシック音楽鑑賞会実行委員会 ①オホーツクバンドクリニック講師による楽器教室 ・開 催 日 5月7日（土）～8日（日） ・会 場 市民会館、オホーツク・文化交流センター ・講 師 天野正道、小泉潤也、工藤隆仁、陸上自衛隊第5音楽隊 ・参加者数 36 名 ・指導部門 フルート、クラリネット、チューバ、サキソフォン、ホルン、トランペット、オーボエ、パーカッション ②フルート教室 ・開 催 日 7月11日（月）、13日（水）、14日（木）、17日（日） ・会 場 第一中学校、第二中学校、第三中学校、桂陽高校、南ヶ丘高校 ・講 師 谷藤万喜子 ・参加者数 10 名 ・指導部門 フルート ③ドラム教室 ・開 催 日 2月5日（日） ・会 場 オホーツク・文化交流センター（音楽練習室） ・講 師 野地亮介（川崎ドラム教習所） ・参加者数 13 名 ・指導部門 パーカッション
成 果	令和4年度は、3回の音楽教室を開催し、小中高生への音楽指導を通じて、音楽文化の振興が図られた。
課 題	限られた予算内で、青少年の音楽文化の振興を図る必要がある。
今後の方向性	クラシック音楽鑑賞会事業と連携し、引き続き青少年への演奏指導を進める。

(3) 美術館の充実

①所蔵作品の展示

項 目	郷土作家「居串佳一」をはじめとする所蔵作品の展示（常設展）（継続）
目 的	居串佳一などの郷土作家や地縁作家、オホーツクに主題を持つ作家などの作品を収集・保存・調査・研究し、地域の芸術文化を次世代に引き継いでいく。
取組実績	常設展 開館日数 252 日 観覧者数 高校生以上 8,189 人 中学生以下 1,429 人 合計 9,618 人
成 果	郷土出身作家や地縁作家の作品を公開することができた。
課 題	作家の紹介など、展示方法の改善についての検討が必要である。
今後の方向性	今後も郷土出身作家等の作品収蔵に努め所蔵作品の充実を図り広く郷土作家を紹介していく。

項 目	所蔵作品特別展（継続）
目 的	美術館所蔵作品を特別展示し広く紹介する。
取組実績	・会 期 居串佳一展 5 月 20 日～6 月 12 日 (21 日) 高橋道雄展 1 月 21 日～2 月 12 日 (21 日) ・観覧者数 高校生以上 117 人 小中学生以下 62 人 合計 179 人
成 果	50 周年記念展に集客が集中していた。
課 題	特になし。
今後の方向性	常設展に加えテーマを決めて所蔵作品を広く紹介していく。

②開館50周年記念展、企画展の開催

項 目	「機械たちの声」『熊谷文秀展』の開催（新規）
目 的	親子で観覧できる企画として動く立体造形作品を展示紹介する。
取組実績	・会 期 4 月 10 日～5 月 8 日 (25 日間) ・観覧者数 高校生以上 525 人 小中学生以下 149 人 合計 674 人 ・関連事業 作家によるギャラリートーク (17 人)
成 果	体の動きや音に反応する作品が好評だった。
課 題	動く作品のため会期中にメンテナンスが必要であった。
今後の方向性	動く仕掛けの理解や、造形方法の理解につながる展覧会が必要である。

項 目	開館 50 周年記念『海洋堂エヴァンゲリオンフィギュアワールド展』の開催（新規）
目 的	塑像と同じ制作方法であるフィギュア展示を通してアートを身近に感じてもらう。
取組実績	・会 期 7 月 30 日～9 月 11 日 (38 日間) ・観覧者数 高校生以上 4,236 人 小中学生以下 971 人 合計 5,207 人
成 果	網走市近隣だけでなく、旭川・帯広・釧路・札幌などから多くの観覧者があった。
課 題	多くの観覧者があった場合の駐車場、監視体制の充実
今後の方向性	サブカルチャーが今や日本を代表するカルチャーとなっていることから、関連する美術作品の紹介により親子での鑑賞を促進していく。

項 目	開館 50 周年記念-笠間日動美術館-『西洋近代絵画展』（新規）
目 的	ピカソ、モネ、ルノアールなど西洋の著名作家を紹介し美術への関心を高める。
取組実績	・会 期 10 月 4 日～11 月 20 日（42 日間） ・観覧者数 高校生以上 2,676 人 小中学生以下 267 人 合計 2,943 人
成 果	開館 50 周年の記念に優れた西洋美術を紹介できた。
課 題	現代作家では空間や映像、プロジェクションマッピングなどの展示などを展示する手法等も模索する必要がある。
今後の方向性	今後も優れた現代作家の作品について紹介していく。

項 目	開館 50 周年記念-オホーツクへ還る-『長谷川誠展』（新規）
目 的	郷土出身の日本画家・長谷川誠の遺作を紹介する。
取組実績	・会 期 2 月 25 日～3 月 26 日（26 日間） ・観覧者数 高校生以上 682 人 小中学生以下 51 人 合計 733 人 ・関連事業 ギャリートーク 2 月 25 日 31 名参加
成 果	郷土出身作家を紹介できた。
課 題	特になし。
今後の方向性	今後も優れた現代作家の作品について紹介していく。

③移動展の開催

項 目	第 6 3 回北海道書道展 網走移道展の開催（継続）
目 的	第 6 3 回北海道書道展の移動展を開催し、書道作品を広く紹介することで、『書写』から芸術表現での『書』への移行を紹介する。
取組実績	・会 期 7 月 10 日～7 月 24 日（13 日間） ・観覧者数 高校生以上 150 人 小中学生以下 3 人 合計 153 人 ・関連事業 解説会・揮毫会はなし
成 果	道内最大級の書による公募展作品を紹介できた
課 題	高校生などの書道作品の展示や著名な書家の作品展示の検討が必要である。
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項 目	第 6 9 回写真道展 網走移動展（継続）
目 的	北海道内の写真公募展である『第 6 9 回写真道展』移動展を開催し、写真作品の鑑賞機会を提供する。
取組実績	・会 期 12 月 17 日～1 月 15 日（21 日間） ・観覧者数 高校生以上 116 人 小中学生以下 2 人 合計 118 人 ・関連事業 解説会・佐々木砂宗さん 12/18 9 人
成 果	道内最大級の写真公募展を紹介できた。
課 題	市内から写真道展への出品が少なく、鑑賞者が伸び悩む状況であり、関心を高めるための普及事業や広報活動などの取り組みが必要
今後の方向性	写真の普及のため継続して、移動展を開催していく。

④講座・教室の実施

項 目	オホーツク・アートセミナー（美術部門）の支援（継続）
目 的	オホーツク・アートセミナーの企画・運営に協力し、美術への関心を高めるとともに、技術の向上を図る。
取組実績	デザイン講座（スマホでアニメ制作） 8月20日・21日 参加者 7名 彫刻講座（高麗石で彫刻を作る） 8月27日・28日 参加者 6名
成 果	自分のスマホで粘土等を使ったアニメーションが出来た。 立体制作の彫刻（カービング）の技法を学べた。
課 題	特になし
今後の方向性	市民の創作活動を促すために継続していく。

項 目	出張美術館の実施（継続）		
目 的	学校等に出張して作品を展示、鑑賞してもらうことで、児童・生徒・学生の美術に対する興味・関心の高揚を目指す。		
取組実績	網走三中学校	5月31日～6月7日(8日間)	305人
	第五中学校	6月8日～6月16日(9日間)	47人
	第二中学校	9月9日～9月16日(8日間)	194人
	網走小学校	10月5日～10月21日(17日間)	289人
	西小学校	11月11日～11月18日(8日間)	153人
	東小学校	11月22日～11月29日(8日間)	85人
	呼人小中学校	1月24日～2月3日(11日間)	41人
		合計 1,114人	
成 果	多くの児童生徒等に美術鑑賞の機会を提供できた。		
課 題	今後も、実施時期・期間について、学校との調整を充分に行う必要がある。		
今後の方向性	今後も継続して多くの学校で開催していく。		

項 目	研修等の受入（継続）
目 的	職場体験や校外学習の受入を行い美術館を身近に感じてもらう機会を設け、美術活動の普及拡大を目指す。
取組実績	講座 高校生オープン講座 通 年 12 名 見学 若葉幼稚園、東京農業大学、第二中学校、網走幼稚園、南ヶ丘高校定時制、呼人中学校、第四中学校、第五中学校、斜里中学校美術部など 研修 第二中学校職場体験 7 月 14 日、15 日 4 名 博物館実習受入 2 月 21 日～2 月 26 日 8 名
成 果	多くの鑑賞者、研修の受入を行い、美術館を広く知ってもらう機会となった。
課 題	特になし。
今後の方向性	今後も鑑賞学習や職場体験などを積極的に受入していく。

(4) 博物館の充実

項 目	特別企画展「網走のはじまり展」の開催（新規）
目 的	郷土の歴史を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・会 期：令和5年2月1日～3月31日 ・入場者：1,412名 ・関連事業：展示説明会 2月5日 参加者：29名
成 果	網走の街が形成され始めた明治時代の様子を紹介できた。
課 題	小中学生の見学機会の増加のため、学校との連携が必要
今後の方向性	網走の歩みをテーマとして開催し、市民が郷土の歴史を見つめ直す機会とする。

項 目	特別企画展「昆虫の系統と分類展」の開催（新規）
目 的	郷土の自然を学び、親しむ機会を提供する。
取組実績	・会 期：令和4年8月1日～9月30日 ・入場者：1,601名 ・関連事業：展示説明会 8月7日 参加者：9名
成 果	網走地域に生息する昆虫の系統や種類について紹介できた。
課 題	特別企画展と関連した観察会の開催など、誘客機会の充実が必要
今後の方向性	網走の自然に触れる機会として、テーマを変えながら開催していく。

項 目	剥製標本作製（継続）
目 的	網走の自然資料を通して、郷土を身近に学び親しむ場を提供する。
取組実績	・剥製標本作製 ニシン、キジバトの剥製4点（博物館、モヨロ貝塚館展示）
成 果	実物の自然資料の収集・公開によって、郷土の自然の豊かさを伝えた。
課 題	限られたスペースでの展示方法の研究が課題
今後の方向性	郷土の自然資料の収集・整理及び資料修理等をすすめる。

5 文化財

(1) モヨロ貝塚の保護と活用

項 目	モヨロ貝塚PR事業（継続）
目 的	モヨロ貝塚PRにより、モヨロ文化を街のシンボリックイメージとして定着させる。
取組実績	・広報活動の充実（ホームページ、新聞・雑誌等での案内、案内チラシ配布） ・案内看板設置（道路等10箇所、空港電照看板）及び、出土品展示（市内外8箇所） ・モヨロカレッジの開講（モヨロ文化に係る講義と体験学習の全5講座） - 講義1 「モヨロ以前の古代文化」 6月25日 参加者：16名 - 体験1 「モヨロ人の動物レプリカづくり」 7月16日 参加者：12名 - 体験2 「モヨロ人の土器づくり」 8月20日 参加者：15名 - 体験3 「モヨロまつり」 9月17日 参加者：464名 - 講義2 「モヨロ文化市民講座」 10月23日 参加者：72名 テーマ：モヨロ人のゆくえ～モヨロ文化と擦文文化をつなぐ標津遺跡群 講 師：小野哲也氏（標津町ポー川史跡自然公園園長）
成 果	モヨロカレッジとしてモヨロ文化を総合的に学ぶ機会を提供できた。
課 題	各種の広報活動の検討と観光機関等との一層の連携が必要
今後の方向性	多様な広報活動を一層すすめ、幅広い年代層へのモヨロ文化の周知を図っていく。

(2) 文化財の保護と周知

項 目	博物館改修事業（新規）
目 的	博物館の改修を行い、建物の保全を図り、文化財的な価値を高める。
取組実績	・屋根の葺き替え及び一部窓枠の改修の実施 ・トイレ及び受付事務室の改修
成 果	補修・改修によって、博物館建物の文化財的価値を保全することができた。
課 題	文化財的価値を充分検討しながら、建物保全に努めることが重要である。
今後の方向性	適正な管理に努め、田上義也建築の文化財的価値の保全を図っていく。

6 スポーツ

(1) スポーツ施設の整備、利用促進

項 目	総合体育館の整備（拡充）
目 的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	第1体育室の床補修及びウレタン塗装、並びにボイラー給水タンクの更新
成 果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課 題	施設の老朽化が進んでおり、施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	陸上競技場の整備（継続）
目 的	スポーツへの参加機会の拡充と施設の効果的な利用促進・活用を図る。
取組実績	超音波風速計の購入、棒高跳び用マットの一部更新
成 果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課 題	トラック舗装の摩耗等が進んでおり、施設の改修や必備用具の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	漕艇場の整備（拡充）
目 的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	公認B級の要件を満たすコース増設及び付帯設備の整備
成 果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課 題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	スキー場の整備（拡充）
目 的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	圧雪車の履帯交換修繕、第2リフト劣化部品更新
成 果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課 題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	スポーツ・トレーニングフィールドの整備（拡充）
目 的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	自家用発電機点検整備
成 果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課 題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

項 目	市営野球場の整備（拡充）
目 的	利用者が安全・快適に利用できる施設整備、利用者へのサービス向上、利用促進を図る。
取組実績	野球場芝生の雑草除草、芝生播種
成 果	施設の整備により、利用者の利便性確保と施設の利用促進が図られた。
課 題	施設の改修や備品の更新等について検討が必要である。
今後の方向性	施設の状況、利用者の要望等を踏まえ、計画的に整備を行っていく。

（２）スポーツ活動の促進

項 目	各種スポーツ教室の開催（継続）
目 的	市民が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	・市民硬式テニス教室 16名 6日間 延 74名 ・市民バドミントン教室（秋） 7名 6日間 延 29名 ・市民バドミントン教室（冬） 19名 6日間 延 91名 ・市民スキー教室 29名 4日間 延 106名 ・冬休みスケート教室 33名 4日間 延 103名 ・初心者スノーボード教室 19名 4日間 延 67名
成 果	子どもから大人まで各教室とも基本技術の習得と競技の楽しさを体験することができる教室として好評を得ている。
課 題	参加者が少ない種目については、そのあり方についての検討が必要である。
今後の方向性	市民ニーズに対応するため、種目・対象・日程を参加しやすい環境にして参加者増に努める。

項 目	いきいき健康体力づくり教室の開催（継続）
目 的	高齢者が気軽に楽しめるスポーツ教室等の開催
取組実績	市内 60 歳以上の方を対象に毎月 1 教室を開催（教室によって実施回数が異なる） 参加者数 15 名 15 回実施 延 122 名
成 果	高齢者の体力維持、健康づくりという点で毎年参加者から好評を得ている。
課 題	高齢者が、安全で理解しやすく、一年を通して継続して参加できる教室内容とすることが必要である。
今後の方向性	スポーツ推進委員と新種目の検討、運営のノウハウを研究しながら継続する。

項 目	オホーツク歩くスキーの集いの開催（継続）
目 的	市民が気軽に楽しめる冬のスポーツ行事の開催
取組実績	・開催日 令和5年 2月19日（日） ・会 場 道立オホーツク公園「てんとらんど」 ・参加者数 52名
成 果	市民に対して、気軽に取り組める冬季スポーツの普及を図ることができた。
課 題	参加者の増加につなげるため、歩くスキーの普及拡大が必要である。
今後の方向性	運動不足になりがちな冬季に気軽に取り組むことができるスポーツの普及を図るため、今後も継続する。

項 目	こどもスポーツチャレンジ事業（継続）
目 的	少年期からスポーツに親しむことにより、体力の向上を図るとともに、普段接することのない子どもたちがスポーツを通じて、協調性を身につけることを目指す。
取組実績	参加者数 39名 11回 336名
成 果	運動する機会の少ない子どもたちには、継続的に運動するきっかけとなり、参加者には満足度の高い事業となっている。
課 題	子どもたちのニーズの把握や、情報収集・研修が必要
今後の方向性	スポーツ推進委員と新たな種目の導入などについて検討を行い、継続して参加してもらえるような魅力ある事業としていく。

項 目	夢の教室事業（継続）
目 的	「夢先生」が自らの体験をもとに「夢をもつことの大切さ」、「仲間と協力することの大切さ」などについて講演と実技を通じて子どもたちに伝える。
取組実績	市内小学校 9校（5年生。一部の小学校では5～6年生） 13コマ 269名受講 ※オンラインで開催 ・8月30日 講師「古木 克明（野球）」 東小学校、西が丘小学校 ・8月31日 「奥山 正憲（ビーチサッカー）」 白鳥台小学校 ・9月1日 「松原 梨恵（新体操）」 網走小学校①、中央小学校 ・9月2日 「前田 宏行（ボクシング）」 網走小学校②、呼人小学校 ・2月7日 「瀬尾 剛（スポーツスタッキング）」 潮見小学校①、南小学校① ・2月8日 「谷井 孝行（競歩）」 潮見小学校②、西小学校 ・2月9日 「川邊 隆弥（サッカー）」 潮見小学校③、南小学校②
成 果	オリンピック出場選手等を「夢先生」として講師に招き、これまでの歩みや体験談等の話を聞くことにより、子どもたちが自分の夢について考える時間を得ることができた。
課 題	子どもたちの関心を高めるため、著名な講師の派遣について依頼を行っていく。
今後の方向性	平成28年度以降、市内全校で実施しており、今後も継続して実施する。

項 目	障がい児・者スポーツ教室の開催（継続）
目 的	障がいのある方が、それぞれの状態に応じたスポーツを行うことにより、活動の場を広げるとともに、身体を動かす喜びを体感してもらい、さらには健康増進・体力向上に繋がっていく取り組みを行う。また、スポーツ大会に出場できる選手の育成を目指す。
取組実績	障がい児・者とその家族等を対象としたスポーツ教室の開催 昼の部 11 回実施 参加申込者 20 名 延参加者 46 名 夜の部 11 回実施 参加申込者 10 名 延参加者 80 名
成 果	参加した障がい児・者にとって定期的に運動する機会が増え、参加者及び関係者からは好評価を得ている。
課 題	障がい児・者スポーツの専門的知識を持った指導者の育成
今後の方向性	スポーツ推進委員と教室の内容を研究し、継続して開催していく。

項 目	日体大連携スポーツ教室の開催（継続）
目 的	日本体育大学及び日本体育大学附属高等支援学校と連携し、スポーツ選手や指導者を講師として招き、講習会を開催することにより、トップアスリート及び指導者の育成を図る。
取組実績	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
成 果	
課 題	参加者のニーズにあった教室内容について、研究していく必要がある。
今後の方向性	教室内容の充実を図り、継続して開催していく。

（３）活動組織や指導者の育成

項 目	活動組織や指導者の育成（継続）
目 的	スポーツ協会や各種スポーツ団体との連携協力を深め、必要な援助を行うとともに、次代を担う子どもたちの育成支援を行う。
取組実績	・地域やスポーツ団体との連携（継続） スポーツ協会及び加盟団体との連携協力 ・スポーツ指導者養成支援（継続） ・スポーツ少年団の育成（継続） 登録団体数 21 団体 団員数 518 名 指導者数 132 名
成 果	各団体が積極的にスポーツに取り組むことにより、各種目の競技力向上、団体の充実が図られるとともに、市教委主催のスポーツイベントなども通じ、より良い事業展開が図られた。
課 題	多くの団体が指導者の不足・高齢化の問題を抱えている。
今後の方向性	各団体及び指導者に対する効果的な支援内容を研究しながら、継続して必要な支援を行っていく。

項 目	スポーツ少年団活動支援事業（継続）
目 的	スポーツ少年団が全道・全国大会に出場する際の交通費を助成することで、活動経費の負担軽減を図り、子どもたちのスポーツ団体への加入を促進する等、スポーツ少年団活動の充実・活性化を図る。
取組実績	全国大会 5 件 計 548 千円 全道大会 8 件 計 2,738 千円 合計 3,286 千円
成 果	遠征費助成は、スポーツ少年団の活動支援に大きな効果があった。
課 題	特になし。
今後の方向性	スポーツ少年団におけるスポーツ振興のため助成を継続し、競技の普及と競技力向上を図る。

項 目	日体大屋内直線走路利用促進事業（継続）
目 的	冬季間における陸上競技等のトレーニング施設が不足していることから、日本体育大学附属高等支援学校の屋内走路を活用し、市内のスポーツ団体等の活動の場を広げる。
取組実績	陸上競技 3 団体 165 名
成 果	天候の影響を受けない屋内走路を利用することにより、冬季間のみならず練習内容の充実が図られた。
課 題	日本体育大学附属高等支援学校との利用調整が必要
今後の方向性	関係団体等に継続して周知し、更なる利用促進を図る。

（４）スポーツ合宿や各種大会の誘致

項 目	障がい者スポーツ合宿誘致事業（継続）
目 的	日本障がい者スポーツ協会等の競技団体やトップアスリートへの誘致活動を積極的に実施することにより、合宿誘致を図る。
取組実績	・シットスキー 1 団体 1 名 延 7 名 ・車椅子レーサー 6 団体 9 名 延 122 名
成 果	・シットスキー1 団体、車椅子レーサー6 団体の合宿が行われた。 ・アスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。
課 題	合宿受け入れ体制（バリアフリー化の推進など）の充実を図る必要がある。
今後の方向性	障がい者スポーツ関係団体等に対し、誘致活動を継続する。

項 目	スポーツ合宿受入対策事業（継続）				
目 的	国内トップアスリートをはじめ多くの競技者の合宿を受入れることにより、地域のスポーツ振興と活性化を図る。				
取組実績	陸上競技	52 団体	810 名	延	6,208 名
	サッカー	2 団体	80 名	延	560 名
	スキー	2 団体	16 名	延	111 名
	スケート	1 団体	25 名	延	425 名
	その他	11 団体	52 名	延	448 名
	計	68 団体	983 名	延	7,752 名
成 果	・ 陸上競技長距離を中心に合宿が行われた。 ・ 合宿人数は、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、女子サッカー 1 チームの合宿により増加し、当市で合宿を実施したチームが好成績を収めている。 ・ アスリートが網走合宿を行うことにより、スポーツ振興と地域の活性化が図られた。				
課 題	毎年受け入れ人数に多少の増減があるため、安定した合宿者の誘致が課題				
今後の方向性	より多くのスポーツ合宿の誘致活動に努める。				

項 目	全国・全道大会の開催支援（継続）
目 的	全国・全道大会開催を支援することにより、大会の円滑な運営を図るとともに、各種目の競技力向上と普及、さらには地域の活性化を図る。
取組実績	・ホクレン・ディスタンスチャレンジ網走大会（継続） ・東日本軟式野球大会（新規） ・北海道学生野球春季・秋季リーグ戦（継続） ・北海道高等学校サッカー選手権大会（新規） ・全日本学童軟式野球大会（新規） ・国民体育大会ボート競技北海道ブロック予選会（継続） ・北海道高等学校駅伝競走大会（新規） ・オープンヨットレース北海道シリーズ（継続） ・道東ジュニア室内水泳競技大会（継続）
成 果	新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった大会があるものの、開催された競技ではレベルの高い大会が行われ、競技力の向上と各団体の運営能力の向上が図られるとともに、地域の活性化が図られた。
課 題	大会開催の支援にあたって、事前に大会規模の把握が必要なこと、また、大会数・規模が毎年変動することへの対応。
今後の方向性	地域の競技力向上と活性化を図るため、今後も支援をしていく。

項 目	インターハイの開催準備（新規）
目 的	令和 5 年度全国高等学校総合体育大会ボート競技開催に向けた準備を行う。
取組実績	令和 5 年度全国高等学校総合体育大会網走市実行委員会の諸経費（前年度開催地視察、事務引継ぎ、大会会場設計委託等）負担
成 果	インターハイボート競技開催に向けた準備が進められた。
課 題	36 年ぶりの大会開催支援にあたって、各種の事前調査や関係団体との調整が必要である。
今後の方向性	令和 5 年度の大会開催に対し必要な支援を行う。

7 国際化対応

(1) 国際化に対応した教育や人材の育成

項 目	国際理解体験事業（継続）
目 的	幼少期から生の外国語に触れたり、外国の伝統的な行事や遊びを体験することにより、国際感覚をもった人材を育成する。また、外国文化にふれることにより、世界に目を向け国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	■ハロウィーン・パーティー2022 ・開催日時 10月28日（金）18:30～20:30 ・会 場 エコーセンター2000 エコーホール、アトリウムロビー ・参加者 73名（市内小学生、学校閉鎖のため27名欠席） ・市民協力 市民ボランティア64名 ・内 容 ハロウィーンにちなんだ工作や体験を6ブース設置し、ローテーション形式で開催。コスチュームコンテストも開催。 ■世界を旅しよう！～網走で外国を体験～ ・開催日時 2月23日（木・祝日）13:00～15:00 ・会 場 エコーセンター2000 3階学習室A B C ・参加者 30名（市内小学生） ・指導者 キムリー・ミッチリー氏（南ヶ丘高校外国語指導員） ケイラ氏、ゾーイ氏（網走市A L T） 茶谷堅志郎氏（JICA国際協力指導員） ・内 容 カナダ、ブラジル、南アフリカ共和国の文化や食習慣などを座学やゲームを通じて体験学習。
成 果	外国の伝統的な文化・風習のほか、世界のさまざまな国を体験・理解する学習機会として定着している。令和4年度は市内の語学指導者やJICAなどの協力のもと、遊びを通じた国際理解体験の機会を創出できた。
課 題	「世界を旅しよう！」については、体験学習指導ができる人材確保が課題となっている。
今後の方向性	子どもたちの国際感覚を育成するために有効な事業であり、参加希望も多く寄せられており、引き続き取り組んでいく。

項 目	英会話指導員の配置（継続）
目 的	幼少期（保育園・幼稚園・小学校）から生の英会話に触れることで、外国語への関心を高め、国際化に対応できる人材を育成する。
取組実績	・保育園・幼稚園・小学校での英会話指導 小学校： 9校 798時間10分 幼稚園： 5園 64時間50分 一般・サークル支援 12時間 合計 875時間00分 ・英会話指導員：シェイン・ラヤソン（カナダ）平成20年8月～
成 果	英会話指導は、教員と意見交換を行い幼児から小学6年生までの段階的な指導要領を作成したことにより、発達段階に応じた系統的な指導が可能になった。
課 題	各小学校、幼稚園、保育園での外国語活動への対応について、学校などの関係機関と連携しながら調整を図る必要がある。
今後の方向性	小学校の外国語教育の必修化を踏まえ、子どもたちの英語力を高め、国際理解を深める有効な事業であり、引き続き取り組んでいく。

Ⅲ 教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員の就任状況

教育長：岩永 雅浩（令和 3年 4月 1日 就任）
 委員：富永 雄一（平成24年10月 1日 就任、職務代理 平成30年4月1日就任）
 中山 真弓（平成26年 4月 1日 就任）
 佐々木砂宗（令和 4年 3月23日 就任）
 伊藤 亮人（令和 5年 3月15日 退任）
 池田 真哲（令和 5年 3月22日 就任）

2 教育委員会議の開催状況

網走市教育委員会における会議（教育委員会議）は、定例会のほか、必要がある場合には、臨時会を開催し、教育委員会の決裁を要する案件（議案）について審議を行うとともに、重要事項について事務局から報告等を受けている。また、案件等について事前に意見交換や協議をする必要がある場合には、教育委員会協議会を開催している。

令和 4 年度の教育委員会議等の開催状況は次のとおりであり、平成22年1月以降の教育委員会議の開催状況については、市のホームページに掲載をしている。

なお、会議の傍聴者はいなかった。

回	開催日	出席 委員数	案 件	審議 結果
1	令和4年 4月20日	2名	議案第1号 令和 4 年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第3号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第4号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について 議案第5号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について 議案第6号 網走市博物館協議会委員の委嘱について 議案第7号 網走市スポーツ審議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃
2	令和4年 5月26日	4名	議案第1号 令和 4 年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市学校給食共同調理場運営委員会委員の委嘱について 議案第3号 網走市奨学生選考委員会委員の委嘱について 議案第4号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について 議案第5号 網走市図書館協議会委員の委嘱について 議案第6号 網走市美術館協議会委員の委嘱について 議案第7号 網走市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第8号 網走市学校給食施設整備計画の策定について 報告第1号 令和 3 年度卒業式・令和 4 年度入学式の状況について 報告第2号 市内小学校における新型コロナウイルス感染症の発生状況について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 報告承認 〃
3	令和4年 6月29日	4名	議案第1号 網走市学校運営協議会委員の任命について	原案可決

4	令和4年 7月19日	4名	議案第1号 令和4年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市教育支援委員会委員の委嘱について 議案第3号 網走市サン育英奨学金選考委員会委員の委嘱について 報告第1号 令和4年度網走市社会教育推進計画について	原案可決 〃 〃 報告承認
5	令和4年 8月18日	4名	議案第1号 令和4年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市教育委員会事務点検・評価報告書の提出について 議案第3号 網走市社会教育施設審議会委員の委嘱について	原案可決 〃 〃
6	令和4年 9月29日	4名	議案第1号 教育財産の取得の申出について 議案第2号 令和4年度一般会計補正予算要求について 議案第3号 網走市立学校職員の自家用車の公用使用に関する規則の一部を改正する規則制定について 議案第4号 令和4年度全国学力・学習状況調査結果の公表について	原案可決 〃 〃 〃
7	令和4年 10月27日	2名	議案第1号 令和4年度全国学力・学習状況調査結果の公表について	原案可決
8	令和4年 11月15日	2名	議案第1号 令和4年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市学校保健委員会委員の委嘱について	原案可決 〃
9	令和4年 12月16日	4名	報告第1号 令和4年度網走市サン育英奨学金奨学生の採用内定について 議案第1号 令和5年度教育予算の要求について	報告承認 原案可決
10	令和5年 1月23日	2名	議案第1号 令和4年度一般会計補正予算要求について 議案第2号 網走市いじめ問題等対策連絡協議会委員の委嘱について	原案可決 〃
11	令和5年 2月15日	4名	議案第1号 網走市学校給食共同調理場設置条例の一部を改正する条例制定について 議案第2号 令和4年度一般会計補正予算要求について 議案第3号 令和5年度教育予算について 議案第4号 令和5年度教育行政推進方針について 議案第5号 令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果」の公表について 議案第6号 適応指導教室（クリオネ教室）の名称変更について	原案可決 〃 〃 〃 〃 〃
12	令和5年 3月10日	3名	議案第1号 令和5年4月1日付校長人事の内申について 議案第2号 令和5年4月1日付教頭人事の内申について	原案可決 〃
13	令和5年 3月15日	3名	議案第1号 網走市教育委員会委員の辞職について 議案第2号 網走市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について	原案可決 〃
14	令和5年 3月28日	4名	議案第1号 網走市学校給食共同調理場管理規則の一部を改正する規則制定について 議案第2号 網走市学校管理規則の一部を改正する規則制定について 議案第3号 オホーツク・文化交流センター条例施行規則の一部を改正する規則制定について 議案第4号 網走市学校運営協議会委員の任命について 議案第5号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第1号 網走市教育委員会職員の任免について 報告第2号 令和5年4月1日付校長・教頭人事について	原案可決 〃 〃 〃 〃 報告承認 〃
※上記のほか、協議会・情報交換等も適宜開催				

3 その他の主な活動

(1) 各種会議への出席等

例年、教育委員は、教育委員会会議に出席するほか、適宜、各種会議へ出席するとともに、学校訪問等を行っているが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入学式・卒業式は出席しないこととした。

区 分 ・ 会 議 名		出席者	時 期
オホーツク管内 教育委員会協議会	教育長会議	教育長	随時開催（年数回）
	教育長部会（専門委員会を含む）	教育長	随時開催（年数回）
	役員会・総会	教育長他	令和4年7月
	教育委員大会（網走市）	教育長他	令和5年1月
	教育長研修会（網走市）	教育長	令和4年12月
北海道都市 教育委員会 連絡協議会	総会（滝川市）	教育委員	令和4年8月
	教育長会春季総会（富良野市）	教育長	令和4年4月
	教育長会秋季総会（登別市）	教育長	令和4年11月
※上記のほか、各種の会議・研修会等に適宜出席			

(2) 教育委員への情報提供

教育委員は、会議に出席するほか、事務局から適宜、教育行政上の課題等について情報提供を受け、事務局と意見交換を行っている。

令和4年度に情報提供等をした主なものは、次のとおりである。

< 案件以外で説明したもの >

- ・ 行政事務報告（市議会に係る報告を含む）
- ・ 各種会議・行事・イベント等の開催案内（毎月）
- ・ 学校経営報告について（毎月）
- ・ 熊出没、不審者情報等について（随時）
- ・ 新型コロナウイルス感染症の対応について（随時）
- ・ いじめ問題について（随時）

4 教育委員による自己点検

令和4年度の教育委員会活動に関して教育委員による自己点検を行い、次のとおり取りまとめを行った。

(1) 教育委員会と学校・PTA・各団体との意見交換などにより、互いの理解を深め、情報を共有して教育活動の適切な実施に努めたい。

- ・ 一昨年前から続いているコロナ禍の状況におきまして、校長会、教頭会、PTA役員など各団体との情報交換が実行できませんでした。多忙な中でも時間をつくり、学校・PTA・各団体との相互理解、共通理解のために、オンラインにて情報共有、情報交換の場を持てればと思います。
- ・ 学校教育においては、益々地域社会との連携が必要な時代になってきたと思います。社会の良識を数多く学ぶためにも、地域の方々とのふれあいは子どもたちにとって必要であるため、先生方のみならずコミュニティ・スクールへ参加される地域住民の方々と教育委員会が想うベクトルを一致させる事が大切と考えます。

(2) 今後も社会教育活動及び各学校の研究発表、その他の行事などに積極的に参加し、市民ニーズや現状の把握などに努め、教育の質的向上を図りたい。

- ・ コロナ禍の現状において、各学校のPTA主催による講演会また入学式・卒業式への参加は難しく大変残念に思います。
- ・ とても良い取り組みが多く行われており、より多くの市民の皆さんに知っていただくための情報発信の在り方を検討します。
- ・ スポーツ合宿・芸術文化合宿誘致活動は公演会や大会の市民の観覧にもつながり、芸術文化の発展、経済活動はもちろんのこと、子どもたちの教育にも大きく寄与しているものと考えます。一方で、友好都市交流や観光事業など、教育性の高い事業が他部署で行われており、部門間の垣根を超えた協力により、更に意義や効果の高いものとなると考えます。
- ・ 社会人に対する学びの企画はよく活動されていると思います。受益者である参加市民の数をさらに膨らませるための広報活動が必要だと思います。どのような情報発信が良いのかこれに重きを置いて取り組んで行ければと思います。

(3) 市民、特に児童生徒を対象とした健康・安全の確保、学校行事等の円滑な実施、施設の充実など、今後も事業内容を検討・精選しつつ、維持・継続されるよう努めたい。

- ・ スポーツ施設やスポーツ行事の企画・開催に参画することで、市民や児童生徒の健康体力の向上に協力させていただいています。
- ・ 市民や児童生徒が健康で安全・安心な社会の構築に向け、施設の点検・防災教育など、地域・家庭・学校と連携を強化し、取り組みを引き続き行うとともに、地域や保護者、児童生徒に信頼される学校づくりを進めるために、教育委員会として支援できる体制を整備したいと思います。

(4) 児童生徒の学力・体力の基礎・基本を確実に身につけさせるとともに、心の教育の充実に努めたい。

- ・ 児童生徒の学力向上に関しては、諸先生方の努力の結果が出てきたと感じています。更なる向上と、引き上げてきた現状を今後維持していくための取り組みが必要であると

思います。

- ・ 児童生徒が体験を通じて楽しさを味わいながら学ぶ力を習得する機会が更に増えると良いと思います。また、道徳の時間の授業公開も更に発展させてほしいと思います。
- ・ 心の教育、道徳については、家庭での協力が重要だと感じておりますので、学校から家庭への働きかけ等を通して、学校と家庭が一体となり取り組む必要があると思います。
- ・ 学力向上を含め、心の教育、食物アレルギーなどについては、家庭との協力が不可欠であり、学校と家庭との結びつきが重要であると感じています。児童生徒、保護者への信用・信頼・安心を互いに築けるよう、学校と家庭の距離感をなくすよう努めてほしいと思います。
- ・ 毎年行われている全国学力・学習状況調査の結果を、広報あばしり及び市のホームページにおいて公表していることにより、学校・家庭が一体となって児童・生徒の学習への取り組みが改善され、市内児童生徒の更なる学力向上につながっていくことを期待します。
- ・ 引き続き、校内研修や学習環境の充実、幼・保、小中高連携の推進、P T A・地域との連携による基本的生活習慣の確立や家庭学習の習慣化などの学力向上に向けた、更なる取り組みが必要であると思います。
- ・ 児童生徒に配布されているタブレットが、授業や学校のプリント等の活用だけでなく、電子図書館を利用できていることは、本を身近なものとして読書量の増加につながっているものと思います。
- ・ 児童生徒の体力の向上を図るため、現状行われている全国体力・運動能力、運動習慣等調査を公表していることで、学校・P T A・地域が一体となって、更なる体力向上を期待します。また、学力だけではなく、体力についても、学力向上推進委員会と連携を密にし、今後の網走を支えていく子どもたちを育てていかなければならないと思います。
- ・ 大切な学校教育の人的資源である先生方のメンタルケアを行う仕組みづくりが必要と思われます。精神的、内面的にも医療従事者に相談等できるとなお良いと思います。また、時間外労働報告も散見されており、令和2年度以降は特にコロナ対応が普段の仕事に加算されたことも一因として考えられますが、今後も先生方の働き方改革が円滑に進むよう注視して行きたいと思います。
- ・ 教育委員会の中でも、学力・体力等の先進的な取り組みをしているところの視察や研修などを行うことを検討してまいりたいと思います。
- ・ 休校により自宅で過ごす時間が増えたこともあり、スマートフォンやタブレットなどI C T機器に触れる機会も以前にも増して増えていると考えます。いわゆる、「ネットいじめ」に対応した道徳教育、特にSNSやゲームの通信機能等を介在した情報モラル教育はもちろん、I Tリテラシーの向上を図り、コミュニケーションや情報端末としての有効活用で、学力の向上にも寄与する取り組みがより一層必要と考えます。

(5) 学校の実情・地域の特徴に応じた魅力ある学校づくりを更に支援したい。

- ・ 市内で始まったコミュニティ・スクールについて、校長会、教頭会などと連携し、地域の方々と学校との繋がりをバックアップして参りたいと思います。
- ・ コミュニティ・スクールの状況報告を受けながら、今後の環境整備充実のためのフィードバック情報を関係者と議論してまいります。
- ・ コミュニティ・スクールの話し合いの場において、学校や地域の実情、特徴を改めて棚卸しするよう提案していき、個人の持っている認識、情報を共有することで、議論の活性化、相互理解の深化が図られ、より魅力ある地域づくりにつなげてまいります。

(6) 教育委員会の更なる発展のため、意欲的な取り組みをしている他市の教育委員会との交流に取り組みたい。

- ・ 教育委員会は教育行政の基本的な施策の決定と重要な案件の処理を行うことから、今後も積極的に研修会や講演会に参加するなど自己研鑽に努める必要があります。
- ・ 学校生活において、日々起り得る問題に積極的に取り組んでいる他都市の教育委員会や団体から指導及び情報を得て役立てるよう努めたいと思います。
- ・ 教育委員会からの情報発信を、様々な媒体を使い積極的に行うことが必要だと考えます。そのことによって情報を受け取った他市との交流も生まれることが期待できると思います。引き続き、他市の教育委員会との意見交換の場への積極的な参加に努めたい。

(7) 教育委員、教育委員会事務局が連携を図るとともに、会議の公開・情報発信に努めながら、より一層、網走の教育発展のために努めていきたい。

- ・ 毎月開催される教育委員会議の開催日程、会議進行は適切であると感じます。今後も効率よく実施し、必要に応じて協議会などを開催すると良いと思います。引き続き、更に円滑な議事進行となるよう、資料の事前配布や全委員が出席できるよう開催日を調整することが必要であると思います。
- ・ 教育委員会議や協議会では、活発な意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。今後も、事務局との情報提供・意見交換を積極的に行うことが必要であると思います。また、開かれた教育委員会を目指し、市民に対し、「なぜ情報発信をするのか」を考え、それを踏まえて、「どのようにしていくか」「なにをするのか」を考えることが情報発信に必要なことから、会議の傍聴や議事録の閲覧についての周知が必要であると思います。
- ・ これまでに総合教育会議により、市長との意見交換が行われてきたところですが、今後も継続することにより、相互理解と教育行政の更なる進展を図ることができると思います。
- ・ 学校教育施設、社会教育施設の状況を把握するため、可能な限り視察・研修する機会を持ちたいと思います。
- ・ 教育委員会と学校、地域住民、他都市の教育委員会とも連携し、情報交換などの交流を深めていくべきだと思います。
- ・ 各教育計画策定において、わかりやすい表現で広報する事が教育委員会活動を市民の皆様に周知させる第一歩だと思います。

(8) 学校教育運営のリスクマネジメント支援に努めたい。

- ・ いじめ問題の重大事態案件に関わり、網走からいじめの根絶、いじめをさせないということを徹底するために、教育委員会と学校の密な連携、迅速な対応が必要です。また、具体的にいじめ防止策をどのように行うか、今後、いじめが認知された場合は直ちに報告するように、生徒に対するいじめは犯罪の境界にあるということを徹底して教えていく必要があります。私たちも教育委員会事務局のマネジメントを支援し、この問題を不安視する関係者との相互理解が出来るよう努めます。

IV 外部評価報告書

『網走市教育委員会に対する外部報告書（令和5年8月4日）』

網走市教育委員会外部評価委員

【学校教育】北海道教育大学旭川校 学校臨床教授 吉田 昌広

【社会教育】元網走市社会教育委員 岡山 一枝

1 学校教育

網走市における教育行政の執行にかかる外部評価結果について報告いたします。以下、「大学という教育・研究機関からの検証」という視点から、①網走市教育委員会の令和4年度活動における全体の評価（指摘事項）、②網走市教育委員会の活動がより家庭・地域・学校に浸透するための提言、の2点について報告させていただきます。

（1）網走市教育委員会の令和4年度活動における全体の評価（指摘事項）

網走市教育委員会がさらなる発展を遂げて網走市の教育を充実させるため、早期の改善が可能な2点について指摘いたします。

① 学校現場における ICT を活用した教育活動及び業務の改善を、市内で一体的に推進する必要がある。

各学校においては「令和の日本型学校教育」の実現を目指し、GIGA スクール構想に基づいた ICT の活用が進められています。また、働き方改革の推進についても ICT を活用した業務改善が進められています。このような網走市における ICT を活用した取組は、北海道教育委員会の指定事業「学校力向上に関する総合実践事業」を推進する指定校の取組を市内に普及するなどして着実に成果を上げ、道内でも先進的な取組として注目を集めていると認識しています。一方で、今後数年で対応すべきこととして、①段階的に取り入れられる電子教科書の導入、②「個別最適な学び」と「協働的な学び」のより一層の一体的な充実、③教職員のより一層の業務改善に取り組むことが喫緊の課題として挙げられますが、現状では、市内の取組に足並みがそろっていない状況が散見されています。今後さらに組織的・計画的、かつ実践的な研修会を工夫するなどして、一体的に推進されることが望ましいと考えます。

② 教育委員会と学校・PTA との相互理解をより一層深める必要がある。

教育委員会自己評価において、「コロナ禍の環境において、対面での意見交換の場が相当に制限されました。」との報告があります。ZOOM 等による Web 会議も一案ではありますが、対面によるコミュニケーションや、直接学校現場に踏み入れて教育活動の様子を見ることは、何より大切にされるべきものであると考えます。特に、教師と子どもが学ぶ様子は、技術的にもなかなかオンラインでは伝わらないものです。一部、保護者や地域の方々の学校内への立ち入りが制限されている現状も考慮しなければなりません。学校への指導及び助言、適切な評価及び改善を求めるのであれば、そのことに関連して同様に制限されるべきものではないと考えます。時間や回数、人数や立入りの条件などを工夫し、双方のメリットとして積極的に視察を行い、対話を重ねることが大切ではないかと考えます。

(2) 網走市教育委員会の活動がより家庭・地域・学校に浸透するための提言

① 網走市教育委員会学校教育部の組織の一部見直しに関する提言

各学校においては、「令和の日本型学校教育」における主体的・対話的で深い学びの実現に向け、管理職を含め教職員個々の理解のもとでカリキュラム・マネジメントを遂行することが喫緊の課題であると考えます。その指導及び助言にあたる教育委員会学校教育部の組織構造において、現在は学校教育部次長が学校運営管理と教育課程管理を兼ねて対応している部分が非常に多いと認識しています。特に、ここ数年学校現場におけるコロナ禍の対応や国のGIGAスクール構想の前倒しによるICTを活用した教育の推進など、取り組むべきことが複雑多岐にわたり、学校教育部次長の役割が急激に負担を増しているように推察します。市内に14校ある小中学校との連携を迅速かつスムーズに行い、それぞれの学校において短期的なPDCAサイクルに基づいた改善及び成果を上げるため、学校教育部次長には教育課程管理に関わる事項を専門的に担わせるとともに、管理職経験者等による学校教育指導員（仮）を増設し、校長及び教頭に対する学校運営管理に関する指導及び助言をより一層充実することを提言します。

② 学校現場における冷房対策に関する提言

地球規模で温暖化が進み、総務省消防庁発表の熱中症情報によると、全国的な傾向として昨年度以上に熱中症による救急搬送者が急増している現状にあります。また、文部科学省は、例年、都道府県教育委員会等を通じて、全国の学校等に対し、熱中症事故の防止について通知等を発出し、児童生徒等の健康管理に向けた注意喚起を行うなど、学校における熱中症対策を推進しています。

このような状況の中、網走市の各学校現場においては、教育委員会からの通知等により、熱中症事故を防止するため、授業中における水分の補給や、屋外における体育的授業の実施を適宜工夫するなどしているところです。しかし、今後、地球温暖化がさらに進むことが予想され、網走市の学校現場において対応がさらに困難な状況を迎えることが考えられます。そのような中、令和4年度に市内すべての学校の保健室にエアコンが設置されたことは学校設置者として一歩踏み込んだ取組を行ったと言えます。各学校においては、扇風機を購入したり、簡易エアコンを設置したりするなどしてきましたが、今後は普通教室にもエアコンの設置を行い、安全・安心な学びの環境を実現していただくよう提言します。

③ コミュニティ・スクール推進事業に関する提言

教育委員会からの報告にもあるように、学校運営や学校の課題に対して、広く保護者や地域住民が参画できることがコミュニティ・スクール導入の目的です。令和元年度から令和2年度にかけて、市内すべての学校・地区で導入され、昨年10月6日には研修会を開催し65名の参加があったとされています。また課題として、「各学校において、地域との連携を深めるための取組内容の充実が必要である。」と記されています。

令和元年から2年度にかけては新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、どの学校においても予測不可能な事態への対応が求められ、かつ学校閉鎖や学校敷地内への立ち入りが制限されるなどの影響を受け、学校運営協議会の立ち上げに伴い、活動内容が十分に吟味されていないか、活動自体が停滞していることが心配されます。学校運営協議会は、保護者や地域住民が一定の責任をもつ

て主体的に学校運営に参画する仕組みとして、これまでの成果を踏まえ、学校がその積極的な活用を図るべきであると考えます。以前の学校評議員会でよく見られた、運営側と評議側の話し合いのレベルにとどまらず、地域住民が「地域の先生」として教育活動に参加したり、学校運営協議会が主体となった学校・地域ぐるみの活動を行ったりするなど、何らかのアクションがあってもよいのではないかと考えます。

そのためには、各学校の学校運営協議会の内容を教育委員会で把握するとともに、コロナ禍で制約を受けてきた市内研修会についても、それぞれの学校の実践を持ち寄り、保護者や地域の代表を加える中で、新たなアクションのきっかけとなる知見を交流できるような内容に改善していく必要があると考えます。

今年度の研修会の実施にあたっては、まずそれぞれの地区内での交流をしつかり行い、全体では先進的な取組の発表に基づき熟議を進められるよう提言します。

(3) 結び

結びに、網走市は豊かな自然に囲まれ、ひと・もの・まちが輝く健康都市と謳われています。その中で教育の担う「ひとづくり」に対して、幼・小・中・高・大学がそろい、教育関連の施設や人々に恵まれているという網走市の大きな強みを生かさない手はありません。今後も、教育を担う学校と保護者、地域が一体となり、子どもたちの夢と網走市の未来が地域で結実する「網走市の教育」を実現していくようご期待を申し上げます。

2 社会教育

(1) 生涯学習について

- ・ 令和4年度は、2年間続いた新型コロナウイルス感染症の影響が緩和され、各種事業や文化活動が再開され、市民の生涯学習もこれまでどおりとはいかないまでも、一定の制限のもと知恵を絞り取り組まれたのではないのでしょうか。
- ・ 毎年多くの市民参加がある「まなび塾フェスティバル」は、コロナの影響で一定の制限を設けての開催となりましたが、14団体の参加、113名の市民ボランティア協力があり、目的である「誰もが楽しく学べる場の提供」が図られたと認識します。今後、以前の規模での開催に向けて市民スタッフと協力して進めていただけたらと思います。
- ・ 「大きなかぶ応援事業（自主学习グループ活動促進事業）」は、13団体の申請があり、予算を上回る申請額に対して、市民団体の学習意欲を満たすため、事業予算を拡充して対応されたことは、生涯学習の推進において評価されるものと考えます。
- ・ オホーツク・文化交流センター（エコーセンター2000）では、時代のニーズに即して、「オンライン予約申請システムの導入」が図られ、「空調機器の更新」や「舞台吊物機構の更新」が行われるなど、市民に愛される施設として機能の向上や安全な施設運営が行われていることを評価します。
- ・ 市民会館については、老朽化が著しく、更新整備に向けて社会教育委員の会議などから提言や意見が示されているとお聞きしています。社会教育施設全体の課題となりますが、市民会館の整備更新について、市として早期に方向性を示されることを期待します。
- ・ 市立図書館においては、3年ぶりに「図書館まつり」が開催され、来館者数、貸出冊数とも前年より増加されたことは、従来の図書館に戻りつつあると感じます。また、デジタル化の流れから今後も利用増が予想される電子図書とのバランスを見ながら、蔵書の充実を期待します。

(2) 社会教育について

- ・ コロナ禍においても、感染対策を講じながら多くの社会教育事業に取り組まれていることが伺われます。特に、令和4年度は「デジタルを活用した新しい学習スタイルの提供や構築」に視点を置いた事業運営が見られました。
- ・ 北海道科学大学と連携して開催された「あばしり学」では、360度カメラでの撮影や動画編集、VR体験といった学習機会が創出されており、新しい社会教育事業の扉を開くものと感じました。
- ・ 「寿大学」においても、友好都市である厚木市の老人クラブとオンラインで交流を図るなど、デジタル技術を活用した学習機会の提供に取り組まれていることを高く評価します。
- ・ 「暮らしをデザイン講座」では、LGBTQをテーマとした講座が開催され、社会の今日的な課題について市民意識の高揚を図られたことは、市民にとっても良い機会であったと感じました。

(3) 家庭教育について

- ・ 地域全体で子どもを育てる視点で、幼児から小・中学生、子を持つ親の世代を対象とした事業に積極的に取り組まれています。
- ・ 「幼児を育てる親の子育て講演会」では、子育て支援課と連携し、保護者向け講

演会のほかに保育従事者向け講演会も開催しており、市全体で子どもを育てる方向性で事業を進めていることを評価します。また、講演会においては会場に来られない保護者を対象に、オンラインを活用してハイブリット形式の講演会を開催しており、デジタル技術を取り入れた取り組みを展開され、安心して受講できる環境づくりに力を入れていることが伺われました。

- ・ 「豊かな心を育てる小中学生の意見発表会」については、昨年度はコロナウイルス感染症の影響から中止を余儀なくされましたが、令和4年度は、通常スタイルで意見発表会が開催され、小中学生の意見が聞けたことを大変うれしく思いました。さらに、標語募集ではQRコードを活用して、オンラインで標語募集を行うなどデジタル技術を活用した新たな応募スタイルの構築が図られ、子どもにも関心を持たせる取り組みを行っていることが伺われました。

(4) 芸術文化について

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、障がい者への学習支援として取り組んでいる「にじいろ音楽祭」が中止されたことは、大変残念に感じましたが、多くの芸術文化事業が再開されたことは、大変喜ばしく感じました。
- ・ 特に、普段なかなか鑑賞することのできない伝統芸能としての「能楽公演」などの鑑賞機会が市民に提供されており、市民企画提案を基本とした芸術文化の鑑賞機会の提供を今後も期待します。
- ・ 市立美術館では、「創立50周年記念」として、「海洋堂エヴァンゲリオンフィギュアワールド展」などユニークな企画展示が行われ、5千人を超える来館者を得たことは評価すべきものと思います。また、周年事業として開催された「西洋近代絵画展」、「長谷川誠展」も優れた作品展であり、今後も市民に関心を持たれる企画を期待します。

(5) 文化財について

- ・ 市立博物館では、網走の歴史、自然、環境をテーマとした興味深い企画展や体験講座が展開されています。
- ・ 令和4年度は、特別企画展として「昭和時代はじめの網走展」、「昆虫の系統と分類展」が開催され、いずれも千人を超える入場者を得ていることを評価します。
- ・ モヨロ貝塚館については、網走を代表する遺跡として整備されており、また、「モヨロまつり」や「モヨロ文化市民講座」などを開催し、市民に関心を持たれるような様々な工夫がなされています。今後は、周辺環境の整備と連動したモヨロ文化のPRがなされるとお聞きしていますので、文化的な価値が一層高まるよう事業の推進をお願いします。

(6) スポーツについて

- ・ 網走市は「北のスポーツ基地」を標榜し、多くのスポーツ施設を抱えています。いずれの施設も老朽化や経年劣化が進んでいると伺っておりますので、施設の状況や利用者の要望等を踏まえ、計画的な修繕や整備をお願いします。
- ・ 市民へのスポーツの推進や健康づくりに視点を置いた様々な「スポーツ教室」が企画され、多くの市民参加があることが伺われます。引き続き、市民ニーズの把握に努め、関係機関と連携した教室の開催を期待します。
- ・ スポーツ合宿の受け入れでは、令和4年度は延べ7千人を超えるアスリートの受け入れを行っています。昨年度よりも千人以上多い実績となっており、女子サッカーをはじめ様々な競技の合宿受け入れに努力されていることを評価します。

- ・ 全国・全道大会の誘致においては、令和４年度は「東日本軟式野球大会」、「北海道高等学校サッカー選手権」、「北海道高等学校駅伝競走大会」などの全道大会ほか、令和５年度は「全国高等学校総合体育大会ボート競技」が行われています。大会等の誘致には、環境整備と各競技団体、市民の協力が欠かせないものと感じておりますので、今後もそれらに配慮した事業展開を期待します。

（７）国際化対応について

- ・ 幼少期から外国語に触れる機会を創出するため、社会教育課に英会話指導員を配置するなど、国際化に配慮した取り組みがなされていることを評価します。
- ・ 令和４年度も「ハロウィーン・パーティ」や「世界を旅しよう！～網走で外国を体験～」など市民ボランティアや外国人講師などの協力を得てユニークな国際化事業が実施されています。
- ・ 関係機関や市民協力のもと、今後も優れた外国語教育や国際体験事業の展開を期待します。